

平成29年度

社会福祉法人 猪苗代福祉会
事業報告書

社会福祉法人 猪苗代福祉会

- 特別養護老人ホームいなわしろホーム
- いなわしろホーム 指定短期入所生活介護事業
指定介護予防短期入所生活介護事業
- いなわしろホーム デイサービスセンター指定通所介護事業
指定介護予防通所介護事業
- いなわしろホーム 指定訪問入浴介護事業
指定介護予防訪問入浴介護事業
- いなわしろホーム 指定居宅介護支援事業
- 障害福祉サービス事業
- 猪苗代町よりの受託事業
 - ・訪問入浴サービス事業
 - ・在宅高齢者生活支援ショートステイ事業

〒969-2661 福島県耶麻郡猪苗代町大字三郷字寺南7962番地1

TEL 0242-66-4123 (代)

FAX 0242-66-4027

TEL 0242-66-4124 (デイサービスセンター、訪問入浴介護事業所)

TEL 0242-66-4125 (居宅介護支援事業所)

FAX 0242-66-4126 (居宅介護支援事業所)

目次

I	社会福祉法人 猪苗代福社会事業報告	3
II	総務課事業報告	5
III	第一事業課事業報告	23
	i 生活支援領域.....	26
	ii 健康支援領域.....	35
IV	第二事業課事業報告	44
	i 在宅福祉支援領域	44
	ii 居宅介護支援領域	51
V	委員会報告.....	56

I 社会福祉法人 猪苗代福祉会事業報告

平成30年3月31日現在

1. 理事会開催状況

第1回 平成29年 5月30日 第2回 平成29年 6月16日
第3回 平成29年10月16日 第4回 平成29年12月 6日
第5回 平成30年 3月22日

※先進地視察（国見町デイサービスセンター）並びに理事委嘱状交付式及び意見交換会を平成29年12月23日に実施。

2. 評議員会等開催状況

第1回定時 平成29年 6月16日 第2回 平成29年 8月18日
第3回 平成29年10月30日 第4回 平成29年12月14日
第5回 平成30年 3月29日

※法改正による新評議員・運営協議会委員委嘱状交付式を平成29年4月1日に実施。

3. 評議員選任・解任委員会

開催日 平成29年8月4日

4. 法人監事監査実施

年度監査 平成29年 5月22日
中間監査 平成29年11月 9日

八子宗平並びに由井忠幸両監事により実施。渡辺公認会計士立ち会い。

5. 入所検討委員会開催状況

第1回 平成29年 5月24日 第2回 平成29年 7月26日
第3回 平成29年 9月27日 第4回 平成29年11月29日
第5回 平成30年 1月24日 第6回 平成30年 3月30日

6. 苦情解決委員会開催状況（第三者委員出席）

平成30年 3月 1日

7. 地域貢献推進委員会開催状況（運営協議会委員出席）

平成29年 8月 7日、平成29年 9月11日、平成29年12月 6日
※福島県地域医療介護総合確保基金事業補助金を活用。

8. 福島県福祉監査課実地指導・監査

居宅介護支援事業所 ：平成29年7月27日
法人・特別養護老人ホーム：平成29年9月 5日

9. 福島労働局雇用関係・均等室ヒヤリング・指導

①働き方休み方改善コンサルタントによるヒヤリング

調査日：平成29年 8月 7日

調査員：福島労働局雇用関係・均等室職員1名

内 容：一般事業主行動計画について

②男女雇用機会均等法並びにパートタイム労働法に基づくヒヤリング

調査日：平成29年10月11日

調査員：福島労働局雇用関係・均等室職員1名

内 容：パートタイム労働法に係る是正2件

10. 介護労働安定センター補助事業による講師派遣

①ストレス軽減について

開催日：平成29年 9月12日、19日

講 師：大森洋亮氏

②雇用管理について

開催日：平成30年 2月 5日

講 師：岡田友子氏

11. 労務管理相談（佐藤知恵子社労士）

第1回 平成29年 4月24日 第2回 平成29年 5月31日

第3回 平成29年 6月27日 第4回 平成29年 7月31日

第5回 平成29年 8月28日 第6回 平成29年 9月25日

第7回 平成29年11月14日 第8回 平成30年12月22日

第9回 平成30年 1月25日 第10回 平成30年 2月23日

※福島県社会福祉法人経営労務管理改善支援事業補助金を活用。

12. 福島県人材定着専門家派遣事業（株式会社エイデル研究所）

説明会 平成29年 7月19日

第1回 平成29年 8月21日 第2回 平成29年 9月21日

第3回 平成29年10月26日 第4回 平成29年11月27日

第5回 平成29年12月21日

Ⅱ 総務課事業報告

平成30年3月31日現在

一 ケアを高める事業

担当班	ケア班	担当事業	ケアを高める事業
課長	一ノ瀬慶子	主任	宮澤重嗣
主担当者	青木リーダー	副担当者	鈴木美緒
報告書作成者	青木瑞恵	作成日	平成30年4月13日

■事業報告または計画の進捗状況

1. 第1回個別援助計画立案研修会「『ケア』を哲学してみよう！」

○：報告 △：計画	○	
①事業名	第1回個別援助計画立案研修会「『ケア』を哲学してみよう！」	
②事業目的	「私たち」の使命とケアの目的を明確にするとともに、それらを達成するために必要な資質と能力を理解する。	
③実施日時	平成29年8月10日16:00～16:45	
④実施場所・会場	家族介護者教室	
⑤事業内容	以下に関する講義。 ・マズローの欲求5段階説から見えてくる「私たち」の使命。 ・ケアの語源から見えてくるケアの本質と求められる資質。 ・使命を達成するために必要なICFの視座・視野・視点。	
⑥実施プログラム	16:00 講義 16:45 終了	
⑦参加人数	12名	
⑧事業目的の達成点	理論について映像や画像を活用するとともに、例えを交えながら説明することでイメージや理解が進んだ。	
⑨事業目的の未達成点	実践と結びつけていないため理解の腹落ちまでにはいかなかった。	
⑩実施上の問題点	研修受講者による各フロアでの伝達研修を計画していたが、プレゼン中心の講義であったため、伝達が難しい内容であった。	
⑪次回への引継ぎ事項	伝達研修ができるよう資料作成を工夫する。	

2. 第2回個別援助計画立案研修会「ストレングスアセスメント演習」

○：報告 △：計画	○	
①事業名	第2回個別援助計画立案研修会「ストレングスアセスメント演習」	
②事業目的	ニーズを引き出すアセスメント力の向上。	
③実施日時	平成29年9月11日、10月11日16:00～17:00	
④実施場所・会場	家族介護者教室	
⑤事業内容	・問題・課題をストレングスにリフレーミングすることによって可能性を拓ける。 ・ICF視座で情報を整理することでニーズを浮かび上がらせる。	

⑥実施プログラム	<p>○9月11日</p> <p>16:00 前回の振り返りと今回の趣旨説明</p> <p>16:10 個人ワーク：事例を読み、情報をシートに整理する。</p> <p>17:00 終了</p> <p>※個人ワークに時間を要したため、次回までの宿題とした。</p> <p>○10月11日</p> <p>16:00 前回の振り返りと今回の流れの説明</p> <p>16:10 グループワーク</p> <p>a. 問題・課題、ストレングスを共有する</p> <p>b. 問題・課題をストレングスにリフレーミングし、シートに整理する</p> <p>c. 整理した情報からニーズを浮かび上げさせ</p> <p>16:45 発表：新しい発見を共有する。</p> <p>16:55 まとめ</p> <p>17:00 終了</p>
⑦参加人数	9月11日：9名、10月11日11名
⑧事業目的の達成点	図の活用や例えを交えて説明することで理解が進むとともに、ストレングスにリフレーミングすることで可能性が広がることを体感できた。
⑨事業目的の未達成点	「健康状態」「心身機能・身体構造」についての情報整理は捗ったものの、「活動」「参加」「個人因子」「環境因子」の情報整理はペースが上がらなかったようであった。
⑩実施上の問題点	想定以上に個人ワークに時間を要し、2回に分けての開催になってしまった。
⑪次回への引継ぎ事項	演習を行う場合は、余裕をもった研修計画を立案する。

3. 第3回個別援助計画立案研修会「アセスメントを深める演習」

○：報告 △：計画	○
①事業名	第3回個別援助計画立案研修会「アセスメントを深める」
②事業目的	課題の背景を考える。
③実施日時	平成29年11月17日16:00～17:00
④実施場所・会場	家族介護者教室
⑤事業内容	ひもときシートを使用し課題の背景や原因等を整理する。
⑥実施プログラム	<p>16:00 講義</p> <p>17:00 終了</p>
⑦参加人数	11名。
⑧事業目的の達成点	時間の都合上、2回に分けての開催となる。 今回は説明+自己ワークだったため、集中して取り組めた。
⑨事業目的の未達成点	最後までワークが終わらない人もいた。
⑩実施上の問題点	時間の都合上、2回の開催となってしまった。
⑪次回への引継ぎ事項	次回はグループワークになるので、課題を仕上げてくる事を再度伝達

	するようにし次回円滑に進められるようにする。
--	------------------------

4. 認知症ケアについての職員ニーズを探る

○：報告 △：計画	-	未実施。
①事業名	認知症ケアについての職員ニーズを探る	
②事業目的	学習ニーズの把握	
③実施日時	未定。	
④実施場所・会場	未定。	
⑤事業内容	アンケート調査。	
⑥実施プログラム	①アンケート用紙作成 ②調査 ②集計 ③勉強会内容の検討	
⑦参加人数	全職員	
⑧事業目的の達成点	-	
⑨事業目的の未達成点	-	
⑩実施上の問題点	-	
⑪次回への引継ぎ事項	-	

■その他

特になし。

■主担当者所見

個別援助計画書作成スキル向上、ケアの質を高める目的で3回の研修を行った。利用者にある課題の背景を考え、強みを生かした生活支援をするための個別援助計画書作成と意識が持てるように今後も研修を重ね、知識を増やしていく必要がある。

また、認知症ケアについては様々な学びの要素があるため、職員ニーズに沿った勉強会を引き続き開催したい。

二 未来人財を育成する事業

担当班	未来人財班	担当事業	未来人財を育成する事業
課長	一ノ瀬慶子	主任	宮澤重嗣
主担当者	林田まり絵	副担当者	宮澤重嗣
報告書作成者	林田まり絵	作成日	平成30年5月9日

■事業報告または計画の進捗状況

1. 季節面談

○：報告 △：計画	○	
①事業名	季節面談	
②事業目的	自己啓発意識の向上およびスキルアップ支援ならびにモチベーションおよび業務パフォーマンスの向上。	
③実施日時	平成29年4月、7月、10月、平成30年1月に個別に日程を調整	

	し、面談を実施。
④実施場所・会場	家族介護者教室
⑤事業内容	個別研修計画および課内マネジメント。
⑥実施プログラム	以下について1人あたり30分程度の面談。 ・個別研修計画立案支援、モニタリング、評価 ・個別相談
⑦参加人数	5名
⑧事業目的の達成点	面談を通して自身の課題が明確になり、スキルアップに向けて切磋琢磨できる土壌が整ってきている。また、個人が抱える業務課題に対して組織的に課題解決を図ることができている。
⑨事業目的の未達成点	個別研修計画の実行状況は、自己マネジメントによる。
⑩実施上の問題点	人によっては、面談時間が1時間に及ぶ場合がある。
⑪次回への引継ぎ事項	事前に面談内容について整理しておくことで面談時間の短縮を図る。 また、7月・1月面談は希望者のみとする。

2. 初任職員研修

○：報告 △：計画	○	入職の都度計画実施。
①事業名	初任職員研修	
②事業目的	チームパフォーマンスの向上のための共通認識の形成。	
③実施日時	平成29年4月12日、6月9日、8月25日、9月11日、平成30年1月11日。各9：00～18：00。	
④実施場所・会場	家族介護者教室、静養室ほか。	
⑤事業内容	法人概要、就業のルール、法人が期待する職員像、社会福祉の援助観と心構え、サービス提供の仕組み、法人の取り組みに関する講義。	
⑥実施プログラム	09：00 法人・事業概要、労働安全衛生教育、防災教育 10：00 朝礼 10：10 接遇・マナー、就業規則と期待する職員像 11：10 ケアマネジメント、栄養マネジメント 12：00 休憩 13：00 社会福祉の援助観と心構え 14：50 口腔ケア、感染症対策、ターミナルケア 15：50 フロアケア、認知症ケア、個別ケア、事故対応等、腰痛予防、施設内見学、リハビリテーション 17：30 事務手続き 18：00 終了	
⑦参加人数	計8名（平成29年4月12日：1名、6月9日：1名、8月25日：3名、9月11日：1名、平成30年1月11日：2名）	
⑧事業目的の達成点	各部署協力により総合的な学習が図られている。	
⑨事業目的の未達成点	1日の研修であるため十分な理解が得られていない。	
⑩実施上の問題点	委員会や研修、館内清掃など他の予定と重なったの実施があり、調整が困難であった。	

⑪次回への引継ぎ事項	余裕を持った計画実施を行う。
------------	----------------

3. 初任職員振り返りテストおよびフォローアップ研修

○：報告 △：計画	○	研修委員会にて計画実施。
①事業名	初任職員振り返りテストおよびフォローアップ研修	
②事業目的	専門職として、社会人として大切にしなければならない姿勢・視点を再学習する。	
③実施日時	平成30年2月15日15:00~17:00	
④実施場所・会場	家族介護者教室	
⑤事業内容	初任職員研修で学習したことを中心とした筆記テストおよびフォローアップ講義。	
⑥実施プログラム	振り返りテスト1時間、フォローアップ研修1時間。	
⑦参加人数	平成28年6月以降入職者8名。	
⑧事業目的の達成点	テストにて入職時に学習した内容を再確認するとともに、フォローアップ研修にて内容を補足・強化することができた。	
⑨事業目的の未達成点	各自自主学习も必要。	
⑩実施上の問題点	中途入職者が多く、時期もばらばらであるため定期的な開催が難しい。	
⑪次回への引継ぎ事項	日程の調整は、1ヶ月以上前に行い、対象者への周知を図る。	

4. 初任職員成果発表

○：報告 △：計画	○	研修委員会にて計画実施。
①事業名	初任職員成果発表。	
②事業目的	初任職員研修やOJTで学習したことを自分の言葉で発表することで理解を促進する。	
③実施日時	平成30年3月15日19:15~19:20	
④実施場所・会場	デイサービスセンター食堂	
⑤事業内容	<p>下記についての発表。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・今までのこと どんなことを心がけ仕事に臨んだか、うまくいったこと、失敗したこと、経験から学んだこと、成長したと感じたこと。 ・これからのこと 自分の課題、今後の目標と目標達成の方法、仲間のために貢献できること。 	
⑥実施プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・一人2分30秒 ・プレゼンテーション方法は発表者の任意 	
⑦参加人数	平成28年6月以降入職の正職員2名。	
⑧事業目的の達成点	これまでを振り返り、これからを見据える機会になった。	
⑨事業目的の未達成点	十分な準備・発表時間を設けることができなかった。	
⑩実施上の問題点	後に事業を控えていたため、慌ただしくなってしまった。	
⑪次回への引継ぎ事項	日程の調整は、1ヶ月以上前に行い、対象者への周知を図る。	

5. 未来ホーム会議

○：報告 △：計画	○	研修委員会を中心に計画実施。
① 業名	未来ホーム会議	
② 事業目的	全職員でユニットケアの共通認識を図る。	
③ 実施日時	平成30年3月15日 19:15～20:30	
④ 実施場所・会場	デイサービスセンター食堂	
⑤ 事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニットケアリーダー研修に参加した3名からユニットケアの理念と概要について学ぶとともに、実習施設で感じた「ユニットケアとは」について伝達してもらう。 ・各グループに分かれて、ユニットケアの理念である「暮らしの継続」の実現についてマインドマップを活用して話し合う。 	
⑥ 実施プログラム	19:15 開会・趣旨説明 19:20 座学『ユニットケアとは何か』 19:50 グループワーク『理念を実現するためには』 20:20 グループワーク発表 20:30 まとめ・閉会	
⑦ 参加人数	34名	
⑧ 事業目的の達成点	ユニットケアの概要と理念について理解できた。	
⑨ 事業目的の未達成点	全員参加には至らなかった。	
⑩ 実施上の問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・周知不足。 ・ファシリテーターの勉強不足。 	
⑪ 次回への引継ぎ事項	<ul style="list-style-type: none"> ・職員への周知方法の見直し。 ・ファシリテーター勉強会の実施。 	

■その他

特になし。

■主担当者所見

どの事業も共通して業務に活かす、繋げることが課題として挙げられる。

三 建設的で前向きな職場風土を育む事業

担当班	職場風土班	担当事業	建設的で前向きな職場風土を育む事業
課長	一ノ瀬慶子	主任	宮澤重嗣
主担当者	宮澤主任	副担当者	小林早苗
報告書作成者	宮澤重嗣	作成日	平成29年10月31日

■事業報告または計画の進捗状況

1. 教育訓練休暇制度整備

○：報告 △：計画	○	
-----------	---	--

①事業名	教育訓練休暇制度整備
②事業目的	職員が将来にわたって希望を持って働くことができるキャリアパスの整備および人材育成体制の構築。
③実施日時	平成29年5月30日理事会承認（平成29年8月1日施行）
④実施場所・会場	社会福祉法人猪苗代福祉会第1回理事会
⑤事業内容	就業規則における自発的な教育訓練受講支援制度の整理。
⑥実施プログラム	教育訓練休暇制度を就業規則に新設し、既存の義務免除制度を整理。
⑦参加人数	社会福祉法人猪苗代福祉会理事者ならびに事務局
⑧事業目的の達成点	これまでの義務免除は活用しづらかったため、教育訓練休暇制度が整備されたことで、私的な研修等受講支援体制は整った。
⑨事業目的の未達成点	キャリアパスの整備は、「猪苗代福祉会共育システム整備事業」で実施する。
⑩実施上の問題点	事業の計画から理事会までの期間が短く、理事会資料に不備が生じてしまった。
⑪次回への引継ぎ事項	理事会資料を作成する際は、関連する制度についても確認し、修正の可否を検討する。

2. 猪苗代福祉会共育システム整備事業

○：報告 △：計画	○
①事業名	猪苗代福祉会共育システム整備事業（キャリアコンサルティング＝CC）
②事業目的	建設的で前向きな職場風土を育み、ケアの質を高めるとともに、人材の育成・定着・確保に繋げる。
③実施日時	平成29年 7月19日10:30～12:00：合同説明会 平成29年8月上旬：職場活性化アンケート実施 平成29年 8月21日13:30～16:30：第1回CC会議 平成29年 9月21日13:00～16:30：第2回CC会議 平成29年10月26日13:00～16:30：第3回CC会議 平成29年11月27日13:00～16:30：第4回CC会議 平成29年12月21日13:00～16:30：第5回CC会議
④実施場所・会場	合同説明会@ふくしま中町会館 CC会議@家族介護者教室
⑤事業内容	キャリアパスならびに研修体系の構築、機能化。
⑥実施プログラム	8～12月にかけてCC会議を開催し、【組織志向：マネジメントコース】と【熟練志向：スペシャリストコース】ならびに人材育成方針（体系構築：管理職・監督職・指導職・中堅職員・新任職員・初任職員等）を協議。
⑦参加人数	合同説明会：3名 第1回：10名（職員7名、株式会社エーデル研究所3名） 第2回：12名（職員8名、株式会社エーデル研究所3名、福島県福祉監査課1名） 第3回：10名（職員8名、株式会社エーデル研究所2名） 第4回：11名（職員8名、株式会社エーデル研究所3名）

	第5回：11名（職員8名、株式会社エーデル研究所3名）
⑧事業目的の達成点	評価体制、研修・人材育成体系の構築など具体的な成果を上げることができた。
⑨事業目的の未達成点	機能化までには至っていない。
⑩実施上の問題点	意見を述べる出席者に偏りがあった。
⑪次回への引継ぎ事項	人事考課と処遇への反映が望まれる。

■その他

年内での整備・構築化は困難。年内に基礎を整え、次年度以降整備、運用になる見通し。

■主担当者所見

教育訓練休暇制度については、顧問の佐藤社労士にアドバイスをいただき、福島労働局ならびに福島県福祉監査課の助成を活用しながら整備、取得実績を挙げられている。

共育システム整備事業については、未来プラン委員会が中心となりコンサルタントと協議を進めている。職場活性化アンケート実施により法人の課題が明確となった。課題に対する対策は、法人の姿勢に左右されるため、どのような組織や人材を期待しているのか明確にする必要があると思われる。

キャリアパス、評価体制、研修・人材育成体系は構築された。これを機能させるためには、これらと人事考課、処遇の連動が必要である。また、課題として、マネジメント力の向上など人事考課者の育成とキャリアパスや人材育成業務専任者の配置が挙げられる。

四 地域福祉を増進する事業

担当班	地域福祉班	担当事業	地域福祉を増進する事業
課長	一ノ瀬慶子	主任	宮澤重嗣
主担当者	鈴木香	副担当者	鈴木美緒
報告書作成者	鈴木香	作成日	平成30年3月31日

■事業報告または計画の進捗状況

1. 地域ふれあい事業にかかる意見交換会

○：報告 △：計画	○
①事業名	地域ふれあい事業にかかる意見交換会
②事業目的	法人の運営協議会委員の方に参加していただき、第2回地域ふれあい事業開催に向けて地域のニーズを汲み取る。
③実施日時	平成29年8月7日、9月11日 11：30～12：30
④実施場所・会場	家族介護者教育室
⑤事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・事業概要の説明。 ・意見交換。 ・食事会（施設給食を用意）。
⑥実施プログラム	11：30 事業概要説明

	12:00 食事会ならびに意見交換会 12:30 終了
⑦参加人数	参加人数：8月は運営協議会4名+職員8名。9月は運営協議会5名+職員8名参加。
⑧事業目的の達成点	民生委員の立場、地域の一員の立場から広く意見を得られた。 食事会を通して運営協議会委員と直接話をする機会ができた。
⑨事業目的の未達成点	毎回参加する運営協議会委員の方が違ってしまいうため、一から説明が必要である。内容に入るまでの時間が長かった為事前準備が足りなかった。
⑩実施上の問題点	実施の計画が急だったため、準備期間が必要。
⑪次回への引継ぎ事項	計画的に準備を進める。前回の話し合いまでの内容をまとめる。

2. ミニ地域ふれあい事業

○：報告 △：計画	○	
①事業名	ミニ地域ふれあい事業	
②事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・第2回地域ふれあい事業に向けて地域のニーズの把握。 ・民生委員の方に地域ふれあい事業の集客もお願いする。 	
③実施日時	平成29年8月22日13:00～14:50	
④実施場所・会場	学びいな（民生委員会会合に参加）	
⑤事業内容	以下についての講話。 <ul style="list-style-type: none"> ・介護予防運動（福地喜裕） ・介護保険制度と施設（小板橋哲也） ・OS-1の摂取方法（小板橋栄子） ・口腔ケアの大切さ（土屋美友紀） 	
⑥実施プログラム	13:00 挨拶・職員紹介 13:10 講話 14:50 終了	
⑦参加人数	民生委員32人+職員9人	
⑧事業目的の達成点	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケートにて、「良かった」の回答が多くあった。 ・後日行われた委員会で運営協議会委員から多くの反省がでた。 	
⑨事業目的の未達成点	アンケートの内容が具体的でなかったため答えも具体的ではなかった。時間配分ができず集客のお願いもできなかった。	
⑩実施上の問題点	事前打ち合わせが足りない。	
⑪次回への引継ぎ事項	話し方、興味をひきつける方法などの事前学習とアンケート内容の見直し。	

3. 第2回地域ふれあい事業

○：報告 △：計画	○	
①事業名	第2回地域ふれあい事業	
②事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・日々得ている知識や技術を地域へ還元し家族の介護力の向上ができる事で、住み慣れた家でいつまでも暮らす事が出来る。 	

	<ul style="list-style-type: none"> ・今後必要とされる介護人材の一助となる。 ・選ばれる施設となる。
③実施日時	平成29年11月23日10:00~12:00
④実施場所・会場	学びいな大ホール
⑤事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・川桁謡真鼓楽会によるアトラクション ・岡本宏二先生による健康長寿と介護予防に関する基調講演 ・ブース運営（総合相談、障害体験、福祉用具展示、筋力年齢測定、認知症、血圧測定、栄養相談） 県社協、(株)メフォス、(株)ハッピーケア協力。 スタンプラリー開催。
⑥実施プログラム	10:00 開会 10:15 講演・ブース運営 12:00 閉会（閉会后、反省会）
⑦参加人数	住民100人+職員17人
⑧事業目的の達成点	アンケートにて「良かった」の意見が多数寄せられた。
⑨事業目的の未達成点	<ul style="list-style-type: none"> ・来客数やアンケートの集計方法や集計結果などデータを出すシステムが不完全である。 ・目標の100人に届かなかった。
⑩実施上の問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・集客が足りない。 ・内容にあった時間配分ではない。
⑪次回への引継ぎ事項	<ul style="list-style-type: none"> ・明確なビジョンを持ち、予定を早めに立てる。 ・集計などのシステムまで計画する。

■その他

学校訪問も予定されていたが、予定が立たず今年度は見送り。

■主担当者所見

法人の運営協議会、民生委員会、猪苗代町社会福祉協議会との直接的な関わり持つ事ができた。川桁謡真鼓楽会への依頼やポスター掲示と、地域への働きかけはしたが予想された集客までは届かなかった。地域のニーズが何かをよく見いだせないまま当日を迎え、目的が達成できた明確でない部分もあった。

五 その他

1. 人事状況

①求人実績

■求人 ※下記内容について当法人ホームページ上でも求人公開している。

求人No	職種	雇用形態	求人数	登録先	備考
1	介護員	正職員	2	郡山健康科学専門学校	-

2	介護員	準職員	2	ハロワーク会津若松	-
3			2	猪苗代町	-
4		契約職員	2	ハロワーク会津若松	-
5			2	猪苗代町	-
6		パート職員	2	ハロワーク会津若松	-
7			2	猪苗代町	-
8		看護員	正職員	1	ハロワーク会津若松
9	1			猪苗代町	-
10	準職員		1	ハロワーク会津若松	-
11			1	猪苗代町	-
12	パート職員		2	ハロワーク会津若松	-
13			2	猪苗代町	-
14	機能回復訓練士	正職員	2	ハロワーク会津若松	-
15			2	猪苗代町	-
16		準職員	2	ハロワーク会津若松	-
17			2	猪苗代町	-
18	生活相談員	正職員	1	会津大学短期大学部	新規大卒求人
19			1	郡山女子大学	
20			1	福島学院大学	
21			1	いわき明星大学	
22			1	東日本国際大学	
23			1	東北福祉大学	
24		1	ハロワーク会津若松		
25	契約職員	1	ハロワーク会津若松	-	
26	事務員	契約職員	1	ハロワーク会津若松	新規高卒求人

■採用

応募総数9名 採用総数7名

求人No	採用日	応募数	採用数	職種	雇用形態	備考
照会	6/12	1	1	機能回復訓練士	正職員	5/19選考
12	9/1	1	1	看護員	パート職員	8/4選考
5	6/11	2	1	介護員	契約職員	8/4選考
14	9/19	1	1	機能回復訓練士	正職員	9/1選考

照会	-	1	0	介護員	契約職員	8/4選考、不採用
4	30/1/22	1	1	介護員	契約職員	11/13選考
4	2/1	1	1	介護員	契約職員	12/1選考
照会	4/1	1	1	介護員	正職員	H30/3/22選考

ハローワークに機能回復訓練士の求人を出してから申込が続いている。求人継続する。

選考にあたって利用者との適切な関わりや記録の重要性を鑑み、昨年度に引き続き作文試験を実施し、応募者の介護観や仕事に対する姿勢、文章力などを考査している。

②出処進退

■登用等実績

No	適用日	職種	人数	内容	事由
1	4/1	機能回復訓練士	1	主任昇格	-
2		介護支援専門員	1	リ-ダ-昇格	-
3		介護員	2	リ-ダ-昇格	-
4		介護員	1	リ-ダ-解任	本人意向
5		介護員	1	雇用形態の変更（ハ-ト職員）	本人意向
6	8/1	介護支援専門員	1	課長心得	-
7		機能回復訓練士	1	リ-ダ-昇格	-
8	8/18	看護員	1	雇用形態の変更（契約職員）	法人意向
9	9/1	機能回復訓練士	1	正職員への登用	試用期間の満了
10	12/1	機能回復訓練士	1	正職員への登用	試用期間の満了
11	30/1/1	看護員	1	雇用形態の変更（契約職員）	法人意向

■離職状況

No	離職日	職種	雇用形態	人数	事由	備考
1	6/8	介護補助員	ハ-ト職員	1	自己都合	-
2	7/31	看護師	正職員	1	自己都合	-
3	9/30	看護師	契約職員	1	自己都合	-
4	30/1/11	介護員	契約職員	1	休職期間の満了	-
5	3/31	介護補助員	ハ-ト職員	1	契約満了	-

③人材育成

○プリセプターシップ制度

初任職員を対象に、それぞれに主指導者となるプリセプターを付け、プリセプティ及びプリセプターのフォロー並びに進捗管理を行うエルダーとして所属領域主任を配置し、指導を行った。

このことについて毎月の研修委員会にて進捗状況や課題などを確認し、対応を検討した。

○取り組み状況

プリセプター—またはエルダーがプリセプターシッププログラムを作成。ひと月毎に到達目標を設定し、プリセプター—とエルダーで各項目を評価し、段階的に育成指導している。

■資格取得支援

No	対象資格	内容	対象者	備考
1	介護支援専門員	受験案内取り寄せ助成	3	-
2	介護支援専門員	教育訓練休暇取得	3	-
3	精神保健福祉士	教育訓練休暇取得	2	対象資格取得

■実習等受入状況

○内容別受入状況

No	期間	内容	派遣機関	受入事業所	受入数	延人数
1	6/5-9	デジタルシステム企業実習	猪苗代高校	ホーム/デイサービス	1	5
2	6/29-30	福祉体験学習	東中学校	デイサービス	5	10
3	8/2	小・中学校経験者研修	猪苗代町教育委員会	デイサービス	1	1
計					7	16

○事業所別受入数

月	法人		特別養護老人ホーム		デイサービス		計	
	受入数	延人数	受入数	延人数	受入数	延人数	受入数	延人数
4	0	0	0	0	0	0	0	0
5	0	0	0	0	0	0	0	0
6	0	0	1	2	6	13	7	15
7	0	0	0	0	0	0	0	0
8	0	0	0	0	1	1	1	1
9-30/3	0	0	0	0	0	0	0	0
計	0	0	1	2	7	14	8	16

体験学習は、高齢者施設が初めてという研修生が多く、また、研修期間が短いことから「楽しかった」と感じてもらい、体験後も興味関心を持ってもらえるよう原則デイサービスでの受け入れを図った。

■障害者職場定着支援

No	障害区分	職種	雇用形態	人数	入職日	備考
1	身体障害	介護補助員	パート職員	1	H27.4.20	30/3/31契約満了

重い物の持ち運びが難しいことから業務配慮し、リハ交換やオムツの在庫管理などを担っていただいている。

■役職員研修受講状況

施設外研修

<役員>

実施月日	研修名	場所	職種	人数	内容
9 25~26	平成29年度社会福祉法人制度改革・監査対応セミナー	ホテルJALシティ田町	施設長	1	平成29年度社会福祉法人制度改革・監査対応セミナー これからの社会福祉法人に求められるガバナンスとコンプライアンス
10 27	会津地区老人福祉施設協議会役員会	喜多方市 特老しょうぶ苑	施設長	1	会津地区老人福祉施設協議会役員会
11 14~15	第74回全国老人福祉施設大会（福島大会）	ビックパレットふくしま	施設長	1	・行政報告・基礎報告・記念講演・大会宣言、次期開催県挨拶・交流会
	19 複合施設「ヒルズ 天性」内覧会・祝賀会	会津若松ワシントンホテル	施設長	1	内覧会：複合施設「ヒルズ 天性」、祝賀会
12 23	視察	国見町	役員職員	11	国見町デイサービス、保育園
1 12	猪苗代町老人クラブ 新年挨拶交歓会	中の沢温泉「リゾートわほなり」	施設長	1	新年挨拶交歓会
	25 平成29年度第2回猪苗代町介護保険運営協議会	猪苗代町役場	施設長	1	第8次猪苗代町高齢者福祉計画・第7次猪苗代町介護保険事業計画(素案)
	26 平成29年度福島県経営協・全国経営協 共通セミナー	ユラックス熱海	施設長	1	ここで差がつく！明日からの社会福祉法人経営～伝えたい3つのこと 時代を先取りした最新情報をキャッチ明日からこれで取り組める！ 地域における公益的な取組の極意を教えます
	31 福島県老人福祉施設協議会施設長会議	磐梯熱海温泉「華の湯」	施設長	1	公益社団法人全国老人福祉施設協議会の公益認定等委員会による立ち入り検査に係る最終報告について 福島県老人福祉施設協議会の一般社団化について 平成30年度介護報酬改定に関する審議内容について その他
2 6	平成29年度全国経営協「保育事業経営セミナー」	全社協 灘尾ホール（新露ヶ関ビル）	施設長	1	迫りくる保育分野の2020年問題～制度・政策から保育事業経営まで・法人経営を総点検&地域と共にある保育経営法人の実践報告・こうすると使える処遇改善加算
	14 平成29年度全国経営協「高齢者福祉事業経営セミナー」	全社協 灘尾ホール（新露ヶ関ビル）	施設長	1	・平成30年度介護報酬改定に対する全国経営協の取組み ・平成30年度介護報酬改定と今後の特養に求められる機能、役割介護分野における生産性向上の取り組みについて ・平成30年度報酬改定のこれまでの議論と展望、福祉・介護分野の人材確保をめぐる動向、外国人人材にかかる諸制度や動向・福祉人材の確保・育成・定着に関する全国経営協の取組
	16 猪苗代町高齢者事業所防災連絡協議会定例会	猪苗代町消防署	施設長	1	定例会
	21~22 平成29年度福島県社会福祉協議会老人福祉施設協議会第2回総会及び施設長・事務長等合同研修会	飯坂温泉 ホテル聚楽	施設長	1	・福島県老人福祉施設協議会の一般社団化・役員承認・報告・他県の公益事業から学ぶ・情勢報告・国政報告・リスク回避の労務管理対策・社会福祉法人の地域における公益的な取組を推進するために・事業案内
	22 第8回とうほう医療福祉経営セミナー	ふくしま医療機器開発支援センター	施設長	1	2018年度同時改定を読み解く～地域包括ケアを見据えた中で同時改定をどう読むか～
	13 平成29年度福島県社会福祉協議会社会福祉法人経営者協議会総会(第2回)	郡山市ユラックス熱海	施設長	1	報告事項・協議事項
	15~16 平成29年度経営戦略セミナー	新横浜プリンスホテル	施設長	1	平成30年度介護報酬改定の概要
	19~20 平成29年度会津地区老人福祉施設協議会施設部会施設長研修会	喜多方市 日中温泉 ゆもとや	施設長	1	情勢報告：平成30年度介護報酬改定について、情報交換：平成29年度福島県指導監査及び介護保険実施指導等

<職員>

実施月日	研修名	場所	職種	人数	内容
9 12	平成29年度高齢者の自立支援に向けた介護事業所向け研修	会津大学	介護支援専門員 機能回復訓練士 介護支援専門員	3	①指定居宅介護サービス事業所（通介・訪介・通リハ）②地域密着型サービス事業所（地域通介・小規模多機能型居宅介護）③指定居宅介護支援事業所④地域包括支援センター⑤市町村（地域包括ケア担当）
	19~23 平成29年度認知症ケア実践者研修①	郡山市ユラックス熱海	介護員	1	①認知症ケアの基本的理解②認知症の人への具体的支援方法と展開③実習
	21 地域包括支援センター主催介護支援専門員勉強会	地域福祉交流センター	介護支援専門員	1	小規模多機能型居宅介護 天空の里 すみれ事例 会津中央訪問看護指定居宅介護支援事業所事例
	29 平成29年度「社会福祉施設栄養士研修」	ビックパレットふくしま	管理栄養士	1	【講義・総論】「最後のスプーンへ繋がる確かな腕」～栄養とリハビリ効果～【講義・各論】グループワーク「心を添えるケア・苦痛を取り除くケア」～症例から学ぶ～
	29 平成29年度福島県社会福祉協議会老人福祉施設協議会災害対策研修会	福島県総合社会福祉センター	副施設長	1	災害対策研修会
10 5	相談支援専門員及びサービス管理責任者（児童発達支援管理責任者）になるために必要な研修①	福島県農業総合センター	生活相談員	1	相談支援専門員及びサービス管理責任者（児童発達支援管理責任者）になるために必要な研修
	2 第48回衆議院議員総選挙に関する不在者投票事務説明会	会津若松合同調査	生活相談員	1	衆議院議員総選挙に関する不在者投票事務説明
	3 地域の支え合いを考えるついで いつまでも安心して暮らせる地域づくりへ	猪苗代町役場3階 正庁	介護支援専門員 機能回復訓練士	2	地域の支え合いを考えるついで
	6 平成29年度社会福祉法人福島県社会福祉協議会老人福祉施設協議会介護員(4年未満)研修会	東館温泉 ユーバル矢祭	介護員	1	介護事故とリスクマネジメント 危険予知訓練（KYT）の展開過程～みんなで育む事故防止の視点

	12・13	平成29年度事務担当者研修会	東山グランドビル	事務員	1	決算の実務について
	10～12	介護支援専門員更新研修(実務未経験者)受講①	ビックバレットふくしま	介護支援専門員	1	介護保険制度の理念・現状及びケアマネジメント、地域包括ケアシステム及び社会資源、自立支援のためのケアマネジメントの基本、人格尊重及び権利擁護並びに介護支援専門員の論理、ケアマネジメントの係る法令等の理解、介護支援専門員に求められるマネジメント、ケアマネジメントに必要な医療との連携及び他職種協働の意義
	16	福祉施設のための苦情対応セミナー	損保ジャパン仙台ビル	看護師 介護員	2	・苦情対応の基本的なフロー
	17	平成29年度介護支援ロボット導入モデル事業検証会議	ふくしま医療機器開発支援センター(郡山市)	主任介護員 介護員	2	-
	18	「もっと!ずっと!歩こう!」講演会	会津若松市ワシントンホテル	機能回復訓練士 機能回復訓練士 看護師	3	①人間の体の仕組みについて②節約遺伝子説について③動かなくなる原因について④ロコモティブシンドロームテストについて
	19～20	平成29年度社会福祉法人福島県社会福祉協議会老人福祉施設協議会「介護職員研修会(4年以上)」	磐梯熱海温泉 華の湯	介護員	1	アンガーマネジメント～4怒りのコントロール～、介護職員に必要なお金の話介護の中にあるリハビリテーション
	19	第13回福祉関係者のための成年後見活用講座	福島市総合社会福祉センター	生活相談員	1	成年後見人制度の概要、法定後見人の申立の実務、成年後見人の職務、日常生活自立支援事業と成年後見、具体的な事例をおして成年後見人の役割を報告する。
	23	平成29年度認知症ケア実践者研修②	郡山市ユラックス熱海	介護員	1	報告会
	24・25	第8回ユニット7研修7月～7月 研修事業 東北ブロック・ユニットケア研究会2017	福島市 ザ・セレクトン福島	副施設長 機能回復訓練士	2	行政報告・ユニットケアの理念と意義・車椅子選定と食事シーン事例・多職種連携研修
	25	猪苗代町保健衛生連絡協議会役員会	猪苗代町役場3階	看護師	1	平成29年度健康講演会について
	30	平成29年度苦情受付担当者研修(基礎編)	郡山ユラックス熱海	機能回復訓練士	1	・苦情解決制度の仕組みと意義について・福祉視閲をめぐる法的問題について・苦情相談事例から学ぶ福祉サービスの向上について
	30	平成29年度「会津・南会津医療圏域退院調整ルール運用評価会議	会津美里町新鶴公民館	介護支援専門員	1	・昨年度の振り返り・退院調整ルール運用状況に関するアンケート調査結果報告・運用に際しての課題と対応策について・全体会議
11	30～1	介護支援専門員更新研修(実務未経験者受講②)	ビックバレットふくしま	介護支援専門員	1	介護保険制度の理念・現状及びケアマネジメント、地域包括ケアシステム及び社会資源、自立支援のためのケアマネジメントの基本、人格尊重及び権利擁護並びに介護支援専門員の論理、ケアマネジメントの係る法令等の理解、介護支援専門員に求められるマネジメント、ケアマネジメントに必要な医療との連携及び他職種協働の意義
	6～7	平成29年度主任介護支援専門員更新研修①	ビックバレットふくしま	介護支援専門員	1	主任介護支援専門員としての実践の振り返りと指導・支援の実践(リハビリ、看取り入退院)(認知症、家族、社会資源、地域密着)
	6～8	2017年度ユニットケア研修(ユニット7-研修)①	TKPガーデンシティ仙台	介護員	1	ユニットケアの理念と意義、ユニットケア導入の課程、高齢者の生活とその環境、情報の活用と職員のサポート及び指導等、ユニットケアの具体的方法、ユニットケア導入運営計画書演習
	11～12	ユマニチュード入門コース	東京医療センター	副施設長 介護員 介護員	3	「ユマニチュード」の哲学・「ユマニチュード」の技法① ケア実践のための5つのステップ 基本実技演習
	16	地域包括支援センター主催介護支援専門員勉強会	地域福祉交流センター	介護支援専門員 介護支援専門員 介護支援専門員	3	事例提供①社会福祉協議会指定居宅介護支援センター 星氏 ②いなわしろホーム指定居宅介護支援事業所 安部氏 意見交換
	20	平成29年度社会福祉法人福島県社会福祉協議会老人福祉施設協議会 生活相談員研修	福島県農業総合センター	生活相談員 介護支援専門員	2	-
	20～22	2017年度ユニットケア研修(ユニット7-研修)①	新潟県パストラル長岡	介護員	1	①ユニットケアの理念と意義②ユニットケア導入の課程③高齢者の生活とその環境④研修のレビュー⑤情報交換会
	21～22	相談支援専門員及びサービス管理責任者(児童発達支援管理責任者)になるために必要な研修②	福島県農業総合センター	生活相談員	1	相談支援専門員及びサービス管理責任者(児童発達支援管理責任者)になるために必要な研修
	22	平成29年度社会福祉法人福島県社協老施協「施設介護支援専門員研修会」	ホテル福島グリーンパリス	介護支援専門員	1	分かりやすい説明の仕方について①コミュニケーションの基本②「きく」の意味③「言いたいこと」をわかりやすく伝える
	22	社会福祉法人会計セミナー	日和田地域交流センター	事務員	1	①現在公表されている通知等の一部②社会福祉法人制度改革③社会福祉法人の決算業務④社会福祉充実残額・社会福祉充実計画
	24	平成29年度福島県介護支援専門員地域同行型研修	ビックバレットふくしま	介護支援専門員	1	介護支援専門員地域同行型研修(案)の概要説明、アドバイザー事前研修のプレ実施、地域同行型研修ににおけるスーパーバイザーの役割
	28	自立支援型地域ケア会議開催に向けた介護事業所向け説明会	猪苗代町役場 3階 正庁	介護支援専門員 介護支援専門員 介護支援専門員 介護支援専門員 介護支援専門員	5	自立支援型地域ケア会議に取り組む意義 介護保険を取り巻く現状 山形県高島町における自立支援型ケア会議の紹介 自立支援型地域ケア会議の今後の進め方について
12	2	ケア・リハビリ研修会	ウィル福島	機能回復訓練士	六澤由佳	慢性呼吸不全に対する療養指導、摂食、嚥下障害の基礎知識、病期に応じたリハビリテーション、大腿骨頭部骨折、変形性膝関節症の理解とリハビリ
	4～8	2017年度ユニットケア研修(ユニット7-研修)実習②	施設おおやま	介護員	1	ユニットケアの理念と意義、ユニットケア導入の課程、高齢者の生活とその環境、情報の活用と職員のサポート及び指導等、ユニットケアの具体的方法、ユニットケア導入運営計画書演習
	5～6	平成29年度主任介護支援専門員更新研修②	ビックバレットふくしま	介護支援専門員	1	主任介護支援専門員としての実践の振り返りと指導・支援の実践(リハビリ、看取り入退院)(認知症、家族、社会資源、地域密着)
	7	老人福祉施設協議会「機能訓練担当者研修会」	とうほう・みんなの文化センター	機能回復訓練士	1	「特別養護老人ホームにおける機能訓練指導員の役割と役割」 「シーティングについて」～ベットから起きることと座ること～
	9	テクノエイド研修会	福島県農業総合センター	機能回復訓練士	1	動作から考えるテクノエイド～基本動作と日常生活動作からの一考
	11～13	介護支援専門員更新研修(実務未経験者)②	ビックバレットふくしま	介護支援専門員	1	介護保険制度の理念・現状及びケアマネジメント、地域包括ケアシステム及び社会資源、自立支援のためのケアマネジメントの基本、人格尊重及び権利擁護並びに介護支援専門員の論理、ケアマネジメントの係る法令等の理解、介護支援専門員に求められるマネジメント、ケアマネジメントに必要な医療との連携及び他職種協働の意義
	13～15	2017年度ユニットケア研修(ユニット7-研修)①	栃木県総合文化センター	介護員	1	ユニット7の理念と意義、ユニットケア導入の課程、高齢者の生活とその環境、情報の活用と職員のサポート及び指導等、ユニット7の具体的方法、ユニットケア導入運営計画書演習
	20	猪苗代町自立支援型地域ケア会議	猪苗代町役場正庁	介護支援専門員 介護支援専門員 介護支援専門員	3	自立支援型地域ケア会議 地域包括支援センターの2事例について
	19～21	平成29年度主任介護支援専門員更新研修③	ビックバレットふくしま	介護支援専門員	1	主任介護支援専門員としての実践の振り返りと指導・支援の実践(リハビリ、看取り入退院)(認知症、家族、社会資源、地域密着)
	19	平成29年度職場におけるメンタルヘルス研修	ビックバレットふくしま	介護員	1	メンタルヘルスの基礎知識・考え方・進め方、4つのケア(厚生労働省指針)と管理監督者の役割、ストレスチェック制度(義務化)、実習

	25～29	2017年度ユニットケア研修（ユニットケア研修）実習②	施設八色園	介護員	1	座学で学んだ事を基に実習体験をする。
1	9～11	平成29年度福島県介護支援専門員実務研修①	ビックパレットふくしま	管理栄養士	1	介護保険制度の理念・現状及びケアマネジメント、地域包括ケアシステム及び社会資源、自立支援のためのケアマネジメントの基本、実習オリエンテーション①
	15～19	2017年度ユニットケア研修実習（ユニットケア研修）②	フローラりんくる	介護員	1	ユニットケアの理念と意義、ユニットケア導入の課程、高齢者の生活とその環境、情報の活用と職員サポート及び指導等、ユニットケアの具体的方法、ユニットケア導入運営計画書演習
	16	地域包括センター主催介護支援専門員勉強会	地域福祉交流会	介護支援専門員	1	情報提供・ケース検討（ケア介護センター斎藤氏）・その他（3月15日開催）
	17	認知症地域支援会議	猪苗代町地域包括支援センター	介護員	1	認知症に関する普及啓発に向けた勉強会について 認知症ケアパスの内容検討
	17～19	平成29年度福島県介護支援専門員実務研修②	ビックパレットふくしま	管理栄養士	1	介護保険制度の理念・現状及びケアマネジメント、地域包括ケアシステム及び社会資源、自立支援のためのケアマネジメントの基本、実習オリエンテーション②
	22～23	平成29年度福島県介護支援専門員実務研修③	ビックパレットふくしま	管理栄養士	1	介護保険制度の理念・現状及びケアマネジメント、地域包括ケアシステム及び社会資源、自立支援のためのケアマネジメントの基本、実習オリエンテーション③
	23	企業主導型保育事業セミナー	トランスティカファレンス仙台	副施設長	1	企業主導型保育事業を活用した経営戦略セミナー 保育事業者による事業拡大セミナー
2	2・6・26	介護支援専門員実務研修	いなわしろホーム	管理栄養士	1	介護保険制度の理念・現状及びケアマネジメント、地域包括ケアシステム及び社会資源、自立支援のためのケアマネジメントの基本、実習オリエンテーション
	20	自立支援型地域ケア会議の傍聴	猪苗代町役場	介護支援専門員 管理栄養士 介護員	5	1事例につき45分目安に概要説明からまとめ アドバイザー福島県高齢福祉課 本多主幹、会津保健福祉事務所 高倉氏より会議の進め方、専門職の助言方法等について
	26	第1回視察	郡山市熱海町	職員	4	特別養護老人ホーム玉川ホーム
3	1	第2回視察	郡山市熱海町	職員	3	特別養護老人ホーム玉川ホーム
	2	平成29年度会津地域現任認定調査員研修会	会津大学	介護支援専門員	5	説明：介護保険運営状況等について 講義：基本調査項目のポイント・特記事項記載のポイント等
	9	平成29年度会津地区老人福祉施設協議会施設部会 第2回テーマ別研修	会津大学	介護員	2	講演：災害発生時の施設の対応について
	15	地域包括支援センター主催介護支援専門員勉強会	地域福祉交流センター	介護員専門員	3	意見交換他、事例概要、次年度計画について
	15	進化する社会福祉法人制度～いま！法人の経営力強化のために～	社・本郷税理士法人仙台事務所	副施設長	1	社会福祉法人の財務管理のツボ 社会福祉法人の労務管理の基礎
	19	平成29年度自衛消防隊員教育への参加	福島県消防学校	介護員	1	-
	24	内覧会	会津美里町	機能回復訓練士	1	宿泊付サービス付デイサービス楽楽みさと 施設建設時のコンセプト説明

施設内研修

実施月日	研修名	講師	職種	人数	内容	
9	11	平成29年度新任職員研修	各担当者	介護員	1	認知症ケア・生活リハビリ・口腔ケア・排泄ケア・ケミカルケア・栄養食 事形態・OA取扱い・労働安全衛生教育他
	19・22	絵本に学ぶ人生の処世術 ～人生の三大危機を乗り越える道しる	針入ヶ丘病院 心理 大森洋亮	全職種	60	①自我の芽生えを大切に～第一反抗期～②思春期危機を乗り越える～第二反抗期～③人生の幕を閉じる～人生の終焉
10	10・12	10月職員会	短期入所生活介護リハビリセンター 副施設長 一ノ瀬慶子	全職種	45	①平成28年度認知症リハビリ研修伝達（認知症と知っておくべきこと） ②非常時初動マニュアルの一部改正 ③外部からの侵入対策について
11	15・16	11月職員会	副施設長 一ノ瀬慶子 生活支援領域リハビリセンター 副施設長 一ノ瀬慶子	全職種	64	・平成28年度認知症リハビリ研修伝達認知症と知っておくべきこと ・非常時初動マニュアルの一部改正・外部からの侵入対策について
12	12・15	12月職員会	副施設長 一ノ瀬慶子 介護員 佐藤多美子	全職種	65	①平成30年度事業説明②育児・介護休業等に関する規程の改定③ユニットケアについて④その他（施設サービスを利用した時の費用）
	16	家族会勉強会	副施設長 一ノ瀬慶子	全職種	56	平成30年度事業説明会
2	23	株式会社岡田プランニング	岡田友子	全職種	62	①地域密着型への転換について②職員処遇改善への取組 講演：モチベーションアップ

講師派遣

実施月日	派遣事業名	場所	職種	講師	内容	
6	23	1人暮らし高齢者交流事業（料理講）	猪苗代町農村環境改善センター	管理栄養士	小板橋栄子	高齢者の長寿料理教室 高齢者が食べやすく、必要な栄養が摂れるメニュー
7	21	1人暮らし高齢者交流事業（料理講習）	猪苗代町農村環境改善センター	管理栄養士	小板橋栄子	高齢者の長寿料理教室 高齢者が食べやすく、必要な栄養が摂れるメニュー

2. 労務管理状況

①私傷病欠勤状況

No	期間	職種	業務配慮
1	4/14-30	介護員	-

2	7/12-30/1/11	介護員	-
3	9/15-30	介護員	-
4	11/16-19	介護支援専門員	-
5	12/4-30/1/31	介護員	平成29年度いっぱいの夜勤業務免除
6	30/2/1-3/31	介護支援専門員	-

②労働災害発生状況

No	発生日	職種	発生状況	業務配慮
-	-	-	-	-

③産休育休等取得状況

No	内容	期間	職種	備考
1	育児休業	4/1-4	介護員	12/4より産前産後休業
	育児短時間勤務	4/5-		
2	育児休業	4/1-9	機能回復訓練士	-
	育児短時間勤務	4/10-		
3	介護休業	6/13-22	介護支援専門員	勤務時間帯の合理的配慮
4	産前産後休業	12/4-30/3/5	介護員	5の妻
	育児休業	30/3/6-		
5	育児休業	1/10-21	介護員	4の夫
6	介護休業	2/26-3/18	介護員	-

3. ケアマネジメント状況

①施設ケアプラン立案

月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計
継続	13	10	21	15	18	14	17	7	16	20	25	22	198
新規	2	1	1	2	0	2	3	1	2	2	2	1	19
看取	0	1	1	0	0	1	1	3	0	1	0	5	13
計	15	12	23	17	18	17	21	11	18	23	27	28	230

②長谷川式評価スケール

得点	評価	人数
4～5点以下	最高度	50
10点以下	高度	10
15点以下	中度	5
20点以下	軽度	10
25点以上	正常	5
計		80

③月別要介護度

要介護	4月		5月		6月		7月		8月		9月		10月		11月		12月		1月		2月		3月	
	男性	女性																						
1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
2	1	3	1	3	1	3	2	3	2	3	2	2	1	3	1	4	2	4	2	4	2	4	1	3
3	2	12	5	12	5	11	4	11	4	10	4	11	3	9	4	8	3	9	3	10	3	12	5	12
4	7	33	6	34	7	32	7	32	7	30	6	31	5	33	4	35	5	35	5	40	6	35	7	33
5	4	18	4	17	4	18	4	19	24	20	5	21	7	22	6	21	5	19	5	19	5	19	5	18
在籍者数	80		82		81		82		100		82		83		83		82		88		86		84	
平均介護度	4.00		3.95		3.98		3.98		4.20		1.46		4.11		4.06		4.00		3.99		3.97		3.98	
前年度平均	4.10		4.00		4.00		4.00		4.10		4.10		4.20		4.20		4.20		4.10		4.10		4.10	

Ⅲ 第一事業課事業報告

平成30年3月31日現在

一 事業計画の現況

部署名	第一事業課	課長	笠間順子
報告書作成者	小板橋哲也、笠間順子	作成日	平成30年3月31日

■事業報告または計画の進捗状況

1. 選ばれる施設づくり

○：報告 △：計画	○
①事業名	選ばれる施設づくり
②事業目的	ニーズに即したサービスの提供。
③実施日時	随時。
④実施場所・会場	-
⑤事業内容	自分の家族に勧められる施設づくり。
⑥実施プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・ケア向上の取り組み。 ・地域ふれあい事業。 ・地域交流事業への参加。
⑦参加人数	全職員。
⑧事業目的の達成点	SSの継続利用者の維持
⑨事業目的の未達成点	未来プラン委員会など設置されているが、幅広く現場の意見を反映させていかないと、スタッフがついていけない。
⑩実施上の問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・現場との温度差解消等がないと意識改革が難しい。 ・ケアの質を優先すべきであると思うが、現場スタッフのケア以外の業務の増加、新規業務の増加により、ケアの質を優先させたくても行えていない状況。それに伴う職員の意欲低下がみられる。
⑪次回への引継ぎ事項	<ul style="list-style-type: none"> ・各スタッフの考えを聞く機会をつくり、反映できるものはして行く。 ・土台作りをしっかり行う。 ・選ばれる施設をつくるために一番必要となるのはケアの質である。ケアの質を高めるために知識や技術があっても対応しきれない状態ではなく、知識、技術をしっかりと活かせる状態で職員が業務にあたるようにしてほしい。

2. 高品質な生活支援

○：報告 △：計画	○
①事業名	高品質な生活支援
②事業目的	利用者のQOLの向上。
③実施日時	随時。
④実施場所・会場	いなわしろホーム入所生活空間。
⑤事業内容	個別ケアの充実。

⑥実施プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者の変化に対応した最善のケアの提供。 ・施設内外の研修参加。
⑦参加人数	第一事業課職員。
⑧事業目的の達成点	個別援助計画立案に関連する勉強会の開催、リーダーの受講、伝達利用者様個々に応じたケア提供
⑨事業目的の未達成点	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者様の変化に対応しきれていない。 ・業務のルーティーン化により個別対応がしっかり行われていない。 ・現存機能を活かしたり、利用者様の希望や状態に対応しきれていない。 ・職員によって対応が様々であり、統一ケアが出来ていない。
⑩実施上の問題点	職員の意識改革や教育ができておらず、流れケアが払拭できない。
⑪次回への引継ぎ事項	<ul style="list-style-type: none"> ・各職員の専門性を生かし、多職種連携し、常に最善のケアを考える。 ・職員の意識改革必要。(その為に必要なものは様々であり、環境や風土を変えていかなければならない)

3. ターミナルケアの充実

○：報告 △：計画	○	
①事業名	ターミナルケアの充実	
②事業目的	利用者や家族、職員が共に共感できるターミナルケアの提供。	
③実施日時	随時。	
④実施場所・会場	各利用者居室。	
⑤事業内容	ターミナルケアについての説明と同意、反省。	
⑥実施プログラム	利用者・家族に対し、入所前からターミナルケアについて説明するとともに、希望等を伺い、施設でできる限りのケアを提供する。 また、ターミナルケアの振り返りを行う。	
⑦参加人数	全職員。	
⑧事業目的の達成点	<ul style="list-style-type: none"> ・家族から感謝の声が聞かれている。 ・ターミナル研修参加等を通し、知識が身につけてきている。 	
⑨事業目的の未達成点	ケアの振り返りや家族等との話し合いができていない。	
⑩実施上の問題点	施設全体の協力が得られていない。	
⑪次回への引継ぎ事項	生活相談員が舵を取るのがベスト。家族と職員の間を調整し、連携を図る。	

3. 介護職員のスキルアップ

○：報告 △：計画	○	
①事業名	介護職員のスキルアップ	
②事業目的	知識や技能のアップ。自分で考え実践できる能力の育成。	
③実施日時	随時。	
④実施場所・会場	施設内外。	
⑤事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・キャリアパスに基づいた研修参加。 ・職員の資格取得支援。 	

	・内部研修促進。
⑥実施プログラム	・教育訓練休暇、勤務調整など。 ・各研修への参加（喀痰吸引研修、認知症関係研修、介護福祉士や介護支援専門員資格取得など） ・個別援助計画立案研修の開催。
⑦参加人数	第一事業課職員。
⑧事業目的の達成点	・必要研修の受講 ・資格取得 ・ノウハウの施設還元 ・理論に基づいた計画的なケアの提供
⑨事業目的の未達成点	受動的な職員が多い。
⑩実施上の問題点	・課全体のケア力の低下や職員流動により、対応しきれていない。 ・基本業務が利用者のペースに合わせて行うため、ケア提供者の能力のみで左右されず、業務調整しにくい。 ・時間および人数調整が困難で取り組む意欲が低下している。 ・自己啓発意欲が高まらない。 ・単純に職務意欲の低下が著明。
⑪次回への引継ぎ事項	総合ケア力の把握とそれに応じた業務提供

■その他
特になし。

■課長所見

全体的には目標をクリアしているが、職員の主体性が出れば、より良いケアの提供に繋がると思われる。しかし、現在は、日々のケアで手詰まりの状況で、職員がゆとりを持ってケアができるよう、処遇面での改善も必要である。

二 取り組み状況

[介護保険改正等での昨今の問題点]

- ・介護保険制度の改正で入所対象者が原則要介護3以上となり、食事介助者の急増、重度認知症者の増加などで、夜間不眠や介護拒否や暴力行為等も増えている。拘縮の強い利用者も増え、オムツ交換に技術が必要で、骨折などのリスクも増え、職員の介護負担が心身ともに急激に増加している。
- ・地域の高齢者世帯や単身世帯の増加や、介護者の病気などで緊急性が高い利用者が急に出ているため、より良い対応が介護放棄や虐待、自殺などを防ぐ手立てとなっている。
- ・全国レベルで利用者不足になっている。長期入所待機者、各種サービスの利用者確保が今後大きな課題となってきている。
- ・全国的な介護職員不足。介護福祉士の専門学校も軒並み定員割れとなっている。当施設でも昨年度介護福祉士実習希望者が1人もいない状況であった。新卒職員が入らない中で、準職員の正職員登用など処遇を改善し、離職のない職場環境づくりが大切である。

[評価が高まっている活動]

- ・今年度さらに理学療法士1名、言語聴覚士1名のリハビリスタッフの増員で、県内外の特養では最高クラスのリハビリスタッフ配置になった。リハビリも身体だけではなく、脳トレなどを取り入れ、特にショートステイ利用者からは好評を得ている。
- ・今年度実施された福島県指導監査において、当施設の処遇や個別ケアについて高評価を得ることができた。
- ・生活リハビリでは、12月1日に全国のリハビリ総会で「介護の中のリハビリ」と題して、当施設を中心とした取り組みが紹介される予定となっている。
- ・口腔ケアの充実。歯科衛生士より「口腔内の清潔保持がいき、誤嚥性肺炎や口臭予防になっている。」との声が聞かれている。平成30年度から歯科衛生士のケアが4回から2回になるため、介護員の協力で維持、向上を図る必要がある。

[今年度への課題の進捗状況について]

- ①喀痰吸引研修の資格取得（介護福祉士でもできるようになる。）
 - ・研修については人数制限があるので、数年計画で増やしていく。
- ②集団リハビリやレクリエーションの充実を図る。（介護員が主体で行う。）
 - ・新しいリハビリスタッフも増員されたため、介護員と協力して余暇時間を有効活用する。
- ③認知症ケアの充実。（資格取得と内部研修実施で、認知症個別ケアの実践をする。）
 - ・認知症実践者研修及びリーダー研修に数名のスタッフを派遣し、資格取得している。
- ④地域交流事業の継続と内容の充実を図る。
 - ・9月にミニふれあい事業を実施。11月23日に他機関と連携し、地域ふれあい事業を実施。
- ⑤地域ニーズを探求し、より地域に根ざした施設づくりをする。
 - ・地域行事の積極的参加と地域ボランティアの積極的受け入れ行っている。
- ⑥介護技術の教科書作成などで、全国にいなわしろホームをPRして行く。
 - ・12月1日には「介護の中のリハビリテーション」として全国発信した。
- ⑦ターミナルケアの要望も増え、より良いターミナルケアについて協議し実践する。
 - ・平成29年度長期入所退所者20名中12名が看取りであった。現在9割以上の利用者および家族が施設でのターミナルケアを望まれている。ここ3年の経験を生かしながら、より良いターミナルケアを模索している状況である。

i 生活支援領域

一 事業計画の現況

部署名	第一事業課生活支援領域		
課長	笠間順子	課長	橋谷田一枝
主任	小板橋哲也	主任	棚木啓史
報告書作成者	小板橋哲也、棚木啓史	作成日	平成30年3月31日

■事業報告または計画の進捗状況

1. 笑顔ある「心通うケア」の提供と自立支援

○：報告 △：計画	○ 継続実施。
①事業名	笑顔ある「心通うケア」の提供と自立支援
②事業目的	ケアへの安心感を高める。
③実施日時	常時。
④実施場所・会場	いなわしろホーム入所生活空間。
⑤事業内容	利用者とのより良いコミュニケーション。
⑥実施プログラム	業務調整によるより利用者主体のケア提供およびより多くの関わる時間の算出
⑦参加人数	入所者ならびに全職員。
⑧事業目的の達成点	利用者からのニーズ発掘と信頼関係の構築。 業務調整による余暇時間の算出
⑨事業目的の未達成点	コミュニケーション不足スタッフが見られる。 職員の統一したケア提供
⑩実施上の問題点	認知機能低下で意志疎通が難しい利用者や被害妄想的利用への対応が困難である。 職員一人一人のケアに対する意識の違いや決定事項を覆し、自己中心的な対応がみられることがあり。
⑪次回への引継ぎ事項	認知症研修受講者を中心に、コミュニケーション作りを学ぶ。 利用者主体の考え方をしっかりとフロアごとに意識するように促していく。

2. 利用者・家族・地域に喜ばれるリハビリテーションの提供

○：報告 △：計画	○
①事業名	利用者・家族・地域に喜ばれるリハビリテーションの提供
②事業目的	利用者QOLの向上。
③実施日時	常時。
④実施場所・会場	いなわしろホーム入所生活空間。
⑤事業内容	利用者のニーズに合わせたリハビリテーション施行および付随する知識、技術の提供。
⑥実施プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・他職種間における情報共有促進 ・リハビリスタッフおよび他職種へのケアアドバイス。 ・担当者会議やフロア会議参加、家族交流時の情報発信。
⑦参加人数	入所者および入所者家族ならびに全職員。
⑧事業目的の達成点	<ul style="list-style-type: none"> ・リハビリの観点からの利用者の生活介入。 ・各会議参加にて情報発信、リハビリ指導、他職種との連携。 ・STのケア介入確立。 ・SS利用者に対するリハビリの毎日提供、充実化 ・地域ふれあい事業への参加による情報発信
⑨事業目的の未達成点	<ul style="list-style-type: none"> ・ニーズの変化の把握、即時対応。 ・ケア介入頻度、より状態に合わせた適切なケア提供。 ・身体状態変化に対する即時対応

	<ul style="list-style-type: none"> ・業務、個別リハビリのルーティーン化 ・他業務増加に伴う個別リハビリ時間の減少
⑩実施上の問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・多職種連携の際、主体業務の提供状況によって、リハビリ提供頻度、内容、提供時間等が変動しやすい。また、時間に追われるとルーティーン化しやすく、状態把握や変化への対応が疎かになってしまう。 ・時間に追われることで、自己解決してしまうことが多く、状態に合わせた訓練項目、介入頻度、時間等の調整がうまく行えていない。
⑪次回への引継ぎ事項	<ul style="list-style-type: none"> ・密に相談や連携を図り、ルーティーン化を防ぐ。 ・考えることを促進する。 ・担当制を再度採用し、責任をもって管理していけるようにする。 ・他者の目がある環境化を作る ・毎月のフロア会議にて利用者の状態の報告を行い、管理状態をリハスタッフ皆で話し合えるようにする。

3. 家族・地域との信頼関係の構築

○：報告 △：計画	○	
①事業名	家族・地域との信頼関係の構築	
②事業目的	家族・地域とのより良い関係づくり。	
③実施日時	随時。	
④実施場所・会場	施設内外。	
⑤事業内容	<ul style="list-style-type: none"> ・家族への細目な連絡や面会時におけるコミュニケーション機会の創出。 ・地域事業への参加や施設行事への参加呼びかけ。 ・地域ふれあい事業実施。 	
⑥実施プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・利用者個々の状態や気持ちを把握し、それに応じた連絡や面会お願いを行う。 ・利用者家族来所の際に積極的にコミュニケーションをとるように促ししていく。 ・業務調整し、地域ふれあい事業の準備、参加促進 	
⑦参加人数	入所者家族ならびに全職員。	
⑧事業目的の達成点	家族・地域との信頼関係の構築。 状態連絡の増加 利用者家族来所時の状態伝達増加	
⑨事業目的の未達成点	家族や地域に自分達の思うようなアピールができていない。 職員によって取り組む姿勢に差があり、まだ全体的に目標達成とはいえない	
⑩実施上の問題点	現場のスタッフの意見が反映されていない。 取り組む意識に差がある	
⑪次回への引継ぎ事項	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会の意見を大事にする。 ・取り組む内容を絞る。 ・継続して促し、意識の向上を図る。 	

4. 自己啓発意識の向上とスキルアップ

○：報告 △：計画	○
①事業名	自己啓発意識の向上とスキルアップ
②事業目的	ケアの質の向上。
③実施日時	随時。
④実施場所・会場	施設内外。
⑤事業内容	・キャリアパスに基づいた研修参加。 ・職員の資格取得支援。
⑥実施プログラム	・各研修への参加（喀痰吸引研修、認知症関係研修、介護福祉士や介護支援専門員資格取得など）。 ・教育訓練休暇、勤務調整など。
⑦参加人数	第一事業課生活支援領域職員。
⑧事業目的の達成点	スタッフ個々が常に考え、高品質ケアの提案ができる。
⑨事業目的の未達成点	今年のアンケートからも、自己啓発に消極的なスタッフが多く見られる。
⑩実施上の問題点	・資格取得以外の研修については、受動性が強く、職員個人から行きたいと思えるような職場風土となっていない。 ・職員配置上、長期間研修は他職員への負担が増え、参加しづらい。 ・研修参加したいと思っても、業務状態により困難なことが多々あり。職員負担だけでなくそれに伴った利用者への負担へと繋がってしまっている。
⑪次回への引継ぎ事項	・やりがいを感じる職場づくり。 ・人間関係に配慮した人員配置。 ・業務調整、分担により研修参加を促進し、スキルアップを図る。尚、しっかりと状態や業務量を考慮し促し、ケアの質が低下しないように促す。

■その他

生活リハビリでは岡本先生図らいで、平成29年12月に「介護の中のリハビリテーション」の題で当施設が中心となった冊子が全国発信された。

■主任所見

- ・上期主任が1名、リーダーが2名昇格したが、新しいフロアへの配置であったため大変な様子が見られた。そのため、アンケートにおいてリーダーに否定的な職員が数多く見られているため、検討が必要。
→ 慣れてきたこともあり、徐々に改善傾向。
- ・介護力向上研修参加を中止し、若い職員が中心となり施設独自で個別ケア向上に取り組んでいるため、全職員で協力応援が必要。
→ 知識の伝達は行ったが、それをケアに活かしかれていない様子あり。
- ・言語聴覚士の採用にて、摂食嚥下動作の評価精度が向上し、ケアにも幅が出ている。これまで

の機能回復訓練士とは異なったタイムスケジュールを構築し、介護職員や利用者に関わる時間が増えたことで、現場に馴染むケアが提供できており、介護職員から多くの相談が上がってきている。

→ 昼食やおやつ摂取時の介入、以前よりも多職種連携による摂食嚥下、食事動作に対するアプローチが行えている。

・新任の理学療法士はデイサービスと兼務ということがあり、身体的・精神的に疲労度が高い様子。状態に合わせて指導ペースの調整が必要。

→ 慣れてきたこともあり状態は落ち着いた印象あり。指導も円滑に行えており、最終ステップまで終了している。

・若い職員が積極的に発言できる風土となっていており良い傾向にある。しかし、慣れなどから不適切な対応や言動、態度が見られている。ケアに影響がないようにしていく。

→ 積極的な意見交換が行われており良い傾向。だが不適切な対応によりBPSDの増悪、精神的ストレスの増悪がみられてしまっていることもある。

・病休、産休、特休、有休等取得者が多く、目標達成を円滑に図ることができなかった。

・業務に追われている状態が続く、業務がルーティーン化してしまっているところが多々あった。

・業務主体になりがち様子であり、利用者様主体でのケア提供がしっかりと行えていないことが多くみられた。

・利用者様のことを評価、分析し、状態を解釈しようとする機会が増えた印象あり。

二 その他

1.出身地別入所・退所状況

市町村別	性別			平成29年度の異動状況					
	現 員			入 所			退 所		
	男	女	小計	男	女	小計	男	女	小計
猪 苗 代 町	15	58	73	4	13	7	2	16	18
会 津 美 里 町	0	0	0	0	0	0	0	0	0
会 津 若 松 市	0	2	2	0	0	0	0	1	1
会 津 坂 下 町	0	1	1	0	0	0	0	1	1
北 塩 原 村	1	0	1	0	1	0	0	0	0
磐 梯 町	1	1	2	1	0	1	0	0	0
合 計	17	62	79	5	14	19	2	18	20

2.月別入所・退所状況

月別	性別	入 所			退 所			
		男	女	小計	男	女	小計	
平成29年	4月	1	1	2	1	1	2	
	5月	0	1	1	0	1	1	
	6月	0	1	1	0	1	1	
	7月	0	2	2	0	2	2	
	8月	0	0	0	0	0	0	
	9月	0	2	2	0	3	3	
	10月	0	3	3	0	3	3	
	11月	0	1	1	0	2	2	
	12月	1	1	2	0	1	1	
	平成30年	1月	0	2	2	1	2	3
		2月	2	0	2	0	0	0
		3月	0	1	1	0	2	2
合計		4	15	19	2	18	20	

3.退所理由

区別 \ 性別	男	女	計	
家族引取り	0	1	1	
他施設へ	0	0	0	
長期入院	0	1	1	
死 亡	施設内(看取)	0	12	12
	入院後	2	4	6
	自 宅	0	0	0
そ の 他	0	0	0	
計	2	18	20	

4. 利用者性別・年齢別構成

○最高齢：100歳 ○最年少：60歳 ○平均年齢：88.33歳（男性：82.60歳/女性：90.14歳）

年齢別 \ 性別	男	女	計	年齢別 \ 性別	男	女	計
65歳未満	1	0	1	85～89歳	4	16	20
65～69歳	2	0	2	90～94歳	1	22	23
70～74歳	0	1	1	95～99歳	2	11	13
75～79歳	2	2	4	100歳以上	0	1	1
80～84歳	7	7	14	計	19	60	79

5.日常生活状況

ADL内容	食 事					移乗動作				移動手手段				入浴		
	自 立	見 守 り	一 部 介 助	全 部 介 助	経 管 栄 養	自 立	見 守 り	一 部 介 助	全 部 介 助	歩 行	歩 行 器 等	車椅子		機 械 浴	ン チ エ バ ア ス イ	個 浴
												普 通 型	そ の 他			
実数(人)	0	11	43	13	12	0	5	33	41	1	3	55	20	28	25	26
割合(%)	0.0%	13.9%	54.4%	16.5%	15.2%	0.0%	6.3%	41.8%	51.9%	1.3%	3.8%	69.6%	25.3%	35.4%	31.6%	32.9%

ADL内容	日中排泄			夜間排泄			離床センサー		身体拘束	
	ト イ レ	P ト イ レ	ベ ツ ト 上	ト イ レ	P ト イ レ	ベ ツ ト 上	あ り	な し	あ り	な し
実数(人)	37	1	41	4	5	70	34	45	0	79
割合(%)	46.8%	1.3%	51.9%	5.1%	6.3%	88.6%	43.0%	57.0%	0.0%	100.0%

6.機能回復訓練状況

(1) 長期入所

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
実施日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	30	364
実人数	80	81	81	79	76	80	82	78	77	79	77	79	949
延回数	947	989	865	885	824	794	754	768	847	784	724	754	9,935

(2) 短期入所

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
実施日数	30	31	30	31	31	30	31	30	31	31	28	31	365
実人数	69	73	76	79	77	82	82	75	76	70	65	73	897
延回数	573	626	587	664	649	633	654	633	664	650	567	636	7,536

7.医療保険加入状況等

性別	保険別	後期高齢者医療保険	国民健康保険 共済組合保険	生活保護	重度医療 受給者	精神障害 者手帳	身体障害 者手帳	特定疾患 医療 受給者証
男	17	国保	3	0	5	0	11	0
女	59	共済	0	2	11	0	16	2
計	76		3	2	16	0	27	2

8.身体障害者手帳所持状況

性別	種別	1級1種	2級1種	2級2種	3級1種	3級2種	4級2種	5級2種	6級2種	計	不所持
男	7	0	1	0	1	1	0	1	11	8	
女	4	5	2	1	1	2	1	0	16	44	
計	11	5	3	1	2	3	1	1	27	52	

9.入所前状況

性別 \ 内訳	家庭	病院	施設	G林-L	計
男	3	8	6	0	17
女	27	14	20	1	62
計	30	22	26	1	79

10.身元引受人状況

続柄	男	女	計
配偶者	0	2	2
子供	14	57	71
兄弟姉妹	2	2	4
いとこ	0	0	0
甥姪	1	1	2
叔父叔母	0	0	0
後見人ほか	0	0	0
孫	0	0	0
計	17	62	79

11.年金受給状況

※併給者1名

種別 性別	国民年金	厚生年金	共済年金	無年金	家族 後見人 管理	不 明	計
男	0	0	0	1	18	0	19
女	1	1	0	0	59	0	61
計	1	1	0	1	77	0	80

12.要介護度状況

平均要介護度 4.05 (男性 3.82 /女性 4.11)

区 分	要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5	計
男	0	2	4	6	5	17
女	0	2	10	29	21	62
計	0	4	14	35	26	79

13.ボランティア受入状況 (奉仕作業、慰問等)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
計	53	12	0	0	71	66	23	22	25	73	37	7	389

14.家族面会状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
計	461	513	170	487	554	400	415	366	333	202	298	488	4,687
1日平均	15	17	6	16	18	13	13	12	11	7	11	16	26
昨年度	487	546	439	500	668	567	533	542	492	572	304	463	6,113
前年比	(26)	(33)	(269)	(13)	(114)	(167)	(118)	(176)	(159)	(370)	(6)	25	(1,426)

※6月は疥癬発症のため面会制限を行ったので大幅に面会者数が減となっている。

※1月、3月下旬はインフルエンザ発症のため面会制限・縮小を行ったため面会者数が減となっている。

15.行事報告※ ※施設にて企画したものを“行事”としているため、ボランティアによる訪問交流は含めていません

月	日	項 目	場 所	参 加 者
平成29年 5月	3日 (水)	PM 園外散策 (お花見)	観音寺川、運動公園ほか	10名
	4日 (木)	PM 園外散策 (お花見)	観音寺川、運動公園ほか	10名
	5日 (木)	PM 園外散策 (お花見)	観音寺川、運動公園ほか	5名
6月	16日 (木)	運動会	疥癬発症により中止	0名
7月	21日 (木)	手持ち花火大会	疥癬発症により中止	0名
8月	3日 (木)	夏まつり	正面玄関前駐車場	156名、ボランティア65名
9月	16日 (土)	敬老会	食堂	132名、ボランティア28名
12月	16日 (土)	もちつき・クリスマス会	食堂	112名

16.長期入所・短期入所実績及び前年度比較表

平成28年度				平成29年度			
月	長期入所	短期入所	計	月	長期入所	短期入所	計
4	2,316	595	2,911	4	2,306	577	2,883
5	2,315	606	2,921	5	2,410	632	3,042
6	2,246	617	2,863	6	2,256	584	2,840
7	2,333	598	2,931	7	2,338	667	3,005
8	2,394	570	2,964	8	2,285	657	2,942
9	2,326	574	2,900	9	2,276	639	2,915
10	2,276	642	2,918	10	2,363	659	3,022
11	2,283	593	2,876	11	2,262	641	2,903
12	2,358	564	2,922	12	2,346	668	3,014
1	2,328	536	2,864	1	2,332	659	2,991
2	2,003	525	2,528	2	2,089	581	2,670
3	2,343	606	2,949	3	2,343	650	2,993
計	27,521	7,026	34,547	計	27,606	7,614	35,220
前年比		長期入所	85	短期入所	588	計	673

[長期入所]

○実績：延85人増

- ・入院者が多く年間延べ49人で1365日間の入院があった。1人で年間30日以上入院された方は15名。100日以上入院された方は4名いた。もっとも入院率が高かった利用者（年間入院率77.3%）が12月で退所されたことで、実績回復になっている。一度入院となると平均入院日数が約28日となっているため、早期入院・早期退院が必要である。入院の長い方が最後は病院で亡くなるケースが多かったため、連絡を密に取り、状態把握することが大事になっている。以前は生活相談員が調整していたが、現在は看護師が行っているので、平成30年度には生活相談員に業務を戻して、調整役を一本化していくようにする。
- ・看取り希望で、入院治療を望まない方も増えているため、実績アップになっている。平成29年度看取り者は退所者20人中12人となっており、より高度なケアが必要とされるようになっている。職員のスキルアップが必要。

○病院別入院延べ日数

- ・猪苗代病院：19人で516日間
- ・会津中央病院：21人で585日間
- ・竹田総合病院：1名で2日間
- ・太田熱海病院：6人で231日間
- ・飯塚病院：1人で29日間

○今年度の状況

- ・昨年度は年間33名の退所があったが、今年度は20人と減少した。また、昨年度は退所日から新規入所日まで平均9日間を要した。今年度は上期は平均7.8日間と短縮したが、下期は13.2日とインフルエンザ等の影響もあって延びてしまった。年間平均10.75日。今後は、一週間以内を目指して行く必要がある。

[短期入所]

○実績：延588人増

○実績アップの要因等

- ・ここ数年利用率に波があり、昨年度は実績が伸び悩んだ。現在は、新規利用が伸びており利用率増加に繋がっている。受付業務も数人のスタッフが対応できるようになっている。
- ・長期利用者の入院が多かったため、空きベット有効活用できた。
- ・家庭事情により、ロング利用者も多かった。

○来年度の課題

- ・実績は現状がMAX値に近いのでキープを目指す。
- ・居住スペース変更で、スペース的には広く、2人部屋もでき調整はしやすくなった。また、リハビリルームと隣り合わせでリハビリがしやすくなった。

[その他]

- ・地域へのアピールとして、介護教室などを開催する。(11月23日地域ふれあい事業実施。)
- ・12月1日に全国のリハビリ総会で「介護の中のリハビリ」と題して、当施設を中心とした取り組みが紹介された。
- ・平成30年度には新たに理学療法士1名と言語聴覚士が1名増員され、特養では県内でも有数のリハビリスタッフ配置施設になっている。

ii 健康支援領域

一 事業計画の現況 - 看護 -

部 署 名	第一事業課健康支援領域（看護）		
課 長	笠間順子	課 長	橋谷田一枝
主 任	-	リ ー ダ ー	鈴木リサ
報告書作成者	笠間順子	作 成 日	平成30年5月11日

■事業報告または計画の進捗状況

1. 一人ひとりの尊重と自立支援

○：報告 △：計画	○
①事業名	一人ひとりの尊重と自立支援
②事業目的	個別性を踏まえた自立支援。
③実施日時	常時。
④実施場所・会場	いなわしろホーム入所生活空間。
⑤事業内容	より良いコミュニケーションを図る。
⑥実施プログラム	情報共有。
⑦参加人数	入所者ならびに全職員。
⑧事業目的の達成点	・情報共有により利用者の個別性の把握ができています。 ・本人や家族からの情報収集ができてきた。
⑨事業目的の未達成点	多職種との情報共有や意思疎通困難者とのコミュニケーション不足。

⑩実施上の問題点	意思疎通困難者への対応。家族とのコミュニケーション方法の確立。
⑪次回への引継ぎ事項	意思疎通困難者や家族とのコミュニケーション方法について学習する。

2. 早期健康支援

○：報告 △：計画	○
①事業名	早期健康支援
②事業目的	健康維持。
③実施日時	常時。
④実施場所・会場	いなわしろホーム入所生活空間。
⑤事業内容	異常の早期発見、早期治療早期退院。
⑥実施プログラム	バイタルサインおよび一般状態の把握。異変時の早期対応。
⑦参加人数	全職員。
⑧事業目的の達成点	・小さな異常にも気づき、早期対応につながっている。 ・他職種（特に介護職）との連携で早期異常につながっている。
⑨事業目的の未達成点	数値の異常や症状が出ず対応が遅れることもあった。
⑩実施上の問題点	利用者個々の通常状態の把握不足。
⑪次回への引継ぎ事項	数値に限らない利用者個々の通常状態の把握。正常・異常についての周知の為や急変時の勉強会実施。

3. 認知症ケアとターミナルケア

○：報告 △：計画	○
①事業名	認知症ケアとターミナルケア
②事業目的	安心・安全な看護ケアの提供。
③実施日時	常時
④実施場所・会場	いなわしろホーム入所生活空間。
⑤事業内容	マニュアルの見直し。
⑥実施プログラム	領域会議で実施
⑦参加人数	第一事業課健康支援領域職員。
⑧事業目的の達成点	なし
⑨事業目的の未達成点	看取り振返りのみであった。
⑩実施上の問題点	看取り振返り時にマニュアルの見直しができなかった。
⑪次回への引継ぎ事項	領域会議時にマニュアルの見直しを図る。

4. 家族・多職種との連携

○：報告 △：計画	○
①事業名	家族・多職種との連携
②事業目的	信頼関係の構築。
③実施日時	随時。
④実施場所・会場	いなわしろホーム入所生活空間。
⑤事業内容	記録の充実ならびに多職種との情報共有。

⑥実施プログラム	ほのぼのNEXTを活用したケア記録と情報の共有。
⑦参加人数	全職員。
⑧事業目的の達成点	・ 特変時以外の通常状態についても説明できている。 ・ 施設での生活が円滑にできる。
⑨事業目的の未達成点	家族との連携が円滑に図れない場合がある。
⑩実施上の問題点	遠方や面会にこない家族との連携。
⑪次回への引継ぎ事項	家族との連携の取り方を検討する。

5. 職員のスキルアップ

○：報告 △：計画	○
①事業名	職員のスキルアップ
②事業目的	安全安心なケアの提供ならびに地域への情報発信ならびに自己啓発意識の向上。
③実施日時	随時。
④実施場所・会場	施設内外。
⑤事業内容	各研修会への参加（感染症予防、褥瘡ケアなど）
⑥実施プログラム	・ キャリアパスに基づいた研修参加。 ・ 地域ふれあい事業への参加協力。 ・ 職員勉強会への参加ならびに自主学习。
⑦参加人数	第一事業課健康支援領域職員。
⑧事業目的の達成点	職員勉強会内容や自主学习の周知が図られている。
⑨事業目的の未達成点	スキルアップの意識が低い職員もいる。
⑩実施上の問題点	職員個々のニーズの把握不足、研修参加の不足。
⑪次回への引継ぎ事項	職員個別面談でのニーズの把握に努め、研修参加計画の立案を図る。 いなけん活用での勉強会参加や実施。

■その他
特になし。

■リーダー所見

- ・ 職員不足を多職種連携で補うためにも知識の習得の勉強会実施を行い、今後も安全安心な看護ケア提供に努めていく。
- ・ 認知症ケア、ターミナルケアのマニュアル見直しを領域会議で検討していく。
- ・ 職員のスキルアップへの取り組みが課題、今後は職員個々のニーズを把握し、研修参加やいなけん活用の勉強会参加や実施を進めていく。

二 事業計画の現況 - 栄養 -

部 署 名	第一事業課健康支援領域（栄養）		
課 長	笠間順子	課 長	橋谷田一枝

主 任	-	リ ー ダ ー	鈴木リサ
報告書作成者	小坂橋栄子	作 成 日	平成30年5月9日

■事業報告または計画の進捗状況

1. 自立支援への取り組み

○：報告 △：計画	○	
①事業名	自立支援への取り組み	
②事業目的	利用者の自立支援。	
③実施日時	常時。	
④実施場所・会場	いなわしろホーム生活空間。	
⑤事業内容	1 食事ケア 2 水分ケア 3 排泄ケア	
⑥実施プログラム	<p>1 食事姿勢や食事形態の見直しなどを行い、咀嚼動作をしっかりと行えるように、その方にあった食事形態で提供する。経口摂取の可能性に関する評価などを行い「口から食べること」を支援する。</p> <p>2 一日の水分摂取量が利用者個別の目標に近づくように、水分の種類・形態・提供時間などを検討する。</p> <p>3 食物繊維を加える、ヨーグルトなどの提供回数を増やすなどし、腸内環境を整えることにより自然な排泄を目指す。</p>	
⑦参加人数	利用者および全職員。	
⑧事業目的の達成点	-	
⑨事業目的の未達成点	-	
⑩実施上の問題点	-	
⑪次回への引継ぎ事項	-	

2. 栄養ケアマネジメントの実施

○：報告 △：計画	○	
①事業名	栄養ケアマネジメントの実施	
②事業目的	利用者の自立支援。	
③実施日時	常時。	
④実施場所・会場	いなわしろホーム生活空間。	
⑤事業内容	1 栄養ケアの提供 2 経口摂取維持の取組み 3 栄養改善サービスの提供	
⑥実施プログラム	<p>1 利用者の体重の増減、栄養状態・喫食状況などを把握し、低栄養状態の予防または改善を行う。定期的にモニタリングを行い、常に適正な「栄養ケア」の手供に努める。</p> <p>2 摂食・嚥下機能や認知機能が低下しても、多職種協働で会議が食事観察などを行い「口からおいしく食べること」を支援する。また、看取りケアとして「最期まで口から食べる」ことを支援し、利用者本位・尊厳の保持を目指す。</p> <p>3 デイサービスの職員や担当ケアマネと連携し、栄養改善の必要な利用者に、栄養ケアを作成し、栄養改善サービスを提供する。</p>	

⑦参加人数	利用者および全職員。
⑧事業目的の達成点	-
⑨事業目的の未達成点	-
⑩実施上の問題点	-
⑪次回への引継ぎ事項	-

3. 安心・安全な食事の提供

○：報告 △：計画	○
①事業名	安心・安全な食事の提供
②事業目的	利用者の健康支援。
③実施日時	常時。
④実施場所・会場	いなわしろホーム生活空間。
⑤事業内容	1 安全な食事の提供 2 衛生管理 3 非常食等の備蓄管理
⑥実施プログラム	1 安全な食材を仕入れ、自分自身の体調管理を行い、安全な食事の提供に努める。 2 衛生管理の基本を順守し、温冷配膳車・ブラストチラーなどを使い、適正な温度・調理時間を守ることで、食中毒や感染症を予防し衛生的で安全な食事を提供する。 3 非常時を想定し、食材や使い捨て容器など必要な物を備蓄管理する。
⑦参加人数	全職員。
⑧事業目的の達成点	-
⑨事業目的の未達成点	-
⑩実施上の問題点	-
⑪次回への引継ぎ事項	-

4. 美味しく喜ばれる食事の提供

○：報告 △：計画	○
①事業名	美味しく喜ばれる食事の提供
②事業目的	食事満足度の向上。
③実施日時	・希望食（麺類）：長期入所）月2回、DS）毎月一週間 ・行事食：季節・節句に応じて ・おやつバイキング：長期入所）4/29、10/7 DS）9/21～24、H30.3/19～21 ・その他：随時
④実施場所・会場	いなわしろホーム生活空間。
⑤事業内容	1 楽しい食事の演出 2 美味しい食事の提供
⑥実施プログラム	1 食べることの楽しみを感じられるよう、季節や行事にあった食事、希望食やバイキング食などを提供する。盛付を工夫したり、手作りおやつを提供し楽しくおいしい時間を演出する。そして、施設内に行事食などの写真などをミニ新聞として掲示する。さらに、施設のホームページのブログにも写真などをアップし情報発信していく。

	2 温冷配膳車を活用し、食物のおいしい温度を保つことで食の満足度の向上を目指す。
⑦参加人数	全職員。
⑧実業目的の達成点	-
⑨実業目的の未達成点	-
⑩実施上の問題点	-
⑪次回への引継ぎ事項	-

■その他

特になし。

■担当者所見

特になし。

三 その他

1.病院受診状況

診療科	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
内科	6	10	9	8	5	6	4	8	5	6	9	7	83
神経内科	3	2	3	1	1	1	1	1	2	1	0	1	17
外科	3	3	2	3	0	5	6	7	3	1	1	5	39
整形外科	4	3	3	10	6	3	3	2	5	3	2	3	47
形成外科	1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
脳外科	1	0	0	0	0	0	1	0	0	0	0	0	2
泌尿器科	1	0	1	0	0	1	1	0	2	0	1	0	7
消化器科	0	0	0	3	0	0	0	0	0	0	0	1	4
眼科	0	2	0	1	3	3	2	1	1	1	0	1	15
婦人科	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
循環器科	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	0	1
皮膚科	9	8	13	2	0	2	4	7	0	2	2	1	50
外傷再建外科	0	0	1	0	0	0	0	1	2	0	0	1	5
精神科	12	12	12	10	10	9	11	9	8	8	8	7	116
歯科	6	6	8	14	11	7	7	1	1	7	5	6	79
救急	1	1	1	1	1	1	1	1	0	1	0	0	9
計	47	47	53	54	38	38	41	38	29	30	28	33	475

2.入院状況

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
人数	4	4	5	4	5	4	4	3	2	4	3	4	46
延日数	71	160	166	85	160	45	149	168	45	174	51	89	1,363

■受診状況について

○皮膚科：50件（昨年52件）

疥癬発症とと類天疱瘡で定期受診する方もおり昨年と同様であった。

○精神科：116件（昨年190件）

入院・退所による減少と専門家治療の対象者が殆どいない状況であると思われる。

○歯科：79件（昨年54件）

口腔ケアの充実により早期治療が多くなってきていると思われる。

○眼科：15件（2件）

経過観察が必要な方が定期受診している影響と思われる。

○救急：9件（15件）

早期発見・治療による影響と思われる。

○内科：83件（119件）

体調管理への配慮や看取りの浸透により受診まで行かず、囑託医との連絡で対応できる状態が多くなってきている影響と思われる。

○整形外科：47件（昨年29件）

転倒や骨粗鬆症による影響で受診率が上がってきている。

■入院状況について

入院延べ人数は46件（昨年45件）と変わらないが延べ日数1363日（昨年1182日）、一人当たりの入院日数29.6日（昨年22.6日）と増えている。疾患では「肺炎」が多く高齢で繰返すが為に重症化しやすいので長期化していると考えられる。今後も退院に向けての家族へのアプローチや看取りへの理解をすすめていきたい。

■感染症について

○疥癬：上半期蔓延したがその後は殆ど発症がなかった。

○インフルエンザ：冬期に発症はあったが蔓延することなく終息した。

○今年度は疥癬発症が蔓延したが他感染症においては蔓延しなかった。感染予防への取り組みが周知されてきた影響と思われる今後も継続して取り組む。

3.栄養管理状況

(1) 食事摂取基準算定

年齢	性別	人数	熱量 (kcal)		蛋白質 (g)	
			推奨量	人数計	推奨量	人数計
50-69	男	2	2,100	4,200	60	120
	女	1	1,650	1,650	50	50
70-	男	15	1,850	27,750	60	900
	女	61	1,450	88,450	50	3,050
推定平均必要量				1,545		52
摂取基準				1,550		56

(2) 月別提供料

区分	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	平均
	熱量 (kcal)		1,661	1,667	1,669	1,661	1,665	1,668	1,664	1,685	1,669	1,669	1,676	1,665
蛋白質 (g)		60.3	59.4	61.1	61.2	60.7	60.1	59.8	60.6	60.0	60.6	60.7	59.6	60.3
脂肪 (g)		43.5	43.9	44.2	42.1	43.5	43.1	43.3	44.3	43.5	44.6	44.2	43.3	43.6
カルシウム (mg)		620	606	593	632	605	613	620	633	609	614	608	595	612
鉄 (mg)		7.9	7.5	7.6	7.8	7.5	7.7	7.5	7.9	7.5	7.6	7.5	7.6	7.6
ビタミンC (mg)		79	81	76	81	82	80	84	79	86	75	78	82	80
塩分 (g)		8.3	8.5	8.4	8.4	8.3	8.5	8.3	8.5	8.3	8.6	8.4	8.6	8.4

(3) 摂取状況

		上期		下期	
		人数	割合 (%)	人数	割合 (%)
主食	飯	12	15	12	15
	おにぎり	0	0	0	0
	軟飯	10	13	10	13
	全粥	35	44	34	43
	ミキサー粥	11	14	12	15
	経管	11	14	11	14
	計	79	100	79	100
副食	常食	16	24	15	22
	きざみ食	25	37	20	29
	超きざみ食	14	21	19	28
	ミキサー食	13	19	14	20
	計	68	100	68	99
提供量	常量	5	7	7	10
	ハーフ	20	29	26	38
	主食ハーフ食	18	27	9	13
	主食小盛	25	37	26	38
	主食大盛	0	0	0	0
	計	68	100	68	99
栄養補助食品	ヨーグルト	9	13	9	13
	ヤクルト	12	18	13	19
	増粘剤	23	34	27	4
	栄養補助食品ゼリー	2	3	3	4
	栄養補助食品ドリンク	1	1	1	1

(4) 療養食ほか

項目		上期	下期
糖尿病食	1,400kcal	0	0
	1,200kcal	3	0
	1,000kcal	2	3
塩分制限食		0	0
経口維持加算		29	27
経口移行食		0	0
ワーファリン食		5	5

(5) 栄養マネジメント

程度	上期		下期	
	人数	割合 (%)	人数	割合 (%)
低リスク	32	40	41	52
中リスク	40	51	33	42
高リスク	7	9	5	6

リスクの内容 (複数あり)		上期	下期
中リスク	BMI低値 (18.5未満)	20	13
	体重減少率高値 (3~5%未満/月)	5	1
	アルブミン低値 (3.6g/dl以下)	22	11
	食事摂取量不良 (75%以下)	1	0
	経管栄養食	11	11
高リスク	体重減少率高値 (5%以上/月)	2	4
	アルブミン低値 (3.0g/dl以下)	4	1
	褥瘡形成	1	1

内容		年度内のリスク変動					
		高→中	中→低	高→低	低→中	中→高	低→高
アルブミン値	改善	2	4				
	低下				1		
BMI	改善		3				
	低下						
褥瘡	治癒						
	形成						1
体重減少率	改善	1	1	1			
	高値					1	1
経管栄養	終了						
	開始						

IV 第二事業課事業報告

平成30年3月31日現在

i 在宅福祉支援領域

一 事業計画の現況

部署名	第二事業課在宅福祉支援領域	課長心得	
リーダー	佐瀬健一	リーダー	福地喜裕
報告書作成者	福地喜裕・佐瀬健一	作成日	平成30年5月8日

■事業報告または計画の進捗状況

1. 安心感のあるその人らしい暮らしの支援

○：報告 △：計画	○	
①事業名	安心感のあるその人らしい暮らしの支援	
②事業目的	<p>1) チームケア：多職種、関係機関でのチーム形成による情報共有からなる、ニーズの把握と適切な計画立案を行うことでより良いサービスを提供する。</p> <p>2) バランスケア：家庭環境と生活状況を把握し、精神・身体に対してより適切なサービスを提供する事で介護予防や安心した在宅生活の継続に資する。</p> <p>3) ターミナルケア：終末期を自宅で過ごしたいというニーズに対してタイムリーに訪問入浴介護を提供する。</p> <p>4) 総合事業：地域のニーズの把握とサービス内容の見直しで他事業所との差別化を図る。</p> <p>5) 障害者地域生活支援：サービスの周知を図り、ニーズとサービスのすり合わせをする事で地域生活を継続できる</p>	
③実施日時	<p>1) 担当者会議、領域会議、連携会議開催日時。</p> <p>2) 居宅訪問、担当者会議、領域会議、連携会議開催日時。</p> <p>3) 担当者会議実施後サービス提供開始時より。</p> <p>4) 総合事業自体はほぼ営業全日で実施。ニーズ把握は未実施。</p> <p>5) 平成29年7月12～13日、30日。</p>	
④実施場所・会場	<p>1) 利用者の自宅(入院している病院)、当ホーム介護者教室、居宅介護支援事業所等。</p> <p>2) 1) に同じ。</p> <p>3) 訪問入浴利用者様(自宅)。</p> <p>4) 当ホーム介護者教室、敷地内外。</p> <p>5) 福島県文化センター、機関紙。</p>	
⑤事業内容	<p>1) 担当者会議、領域会議、連携会議。</p> <p>2) 居宅訪問、担当者会議、領域会議、連携会議。</p> <p>3) 担当者会議、領域会議、連携会議。</p>	

	4) 総合事業。 5) 障害者相談支援従事者養成講座への参加・広報誌でのPR。
⑥実施プログラム	1) 会議での焦点を絞った綿密な情報交換。 2) 専門職による在宅環境の評価とフィードバック。1)に同じ。 3) 終末期ケアプランに基づき各職種連携しサービス提供。 4) 利用者の意欲向上、自立支援へ向けたプログラムの立案・実施(時節に合わせた作業活動やお出かけ、体力測定、勉強会等) 5) ⑤に同じ
⑦参加人数	利用者・家族、サービス提供事業者。 第二事業課在宅福祉支援領域職員。
⑧事業目的の達成点	連携会議を行うことで情報の共有がしやすくなっている。
⑨事業目的の未達成点	・徐々にチームの一員として職員一人一人が職責を自覚し、お互いの職責も自覚したうえでフォローを行えるようになってきている。 ・総合事業に関しては引き続きニードの把握と他事業所との差別化の項目が手探りの状態。 ・障がい者に対するアプローチは訪問入浴では実施出来ているが、デイサービスでは引き続き準備段階。
⑩実施上の問題点	⑨に同じ。
⑪次回への引継ぎ事項	⑨に同じ。

2. 安全なサービスの提供

○：報告 △：計画	○	
①事業名	安全なサービスの提供	
②事業目的	不測の事態に備え、安心・安全なサービスを提供する。	
③実施日時	平成29年8月～9月	
④実施場所・会場	第二事業課在宅福祉支援領域。	
⑤事業内容	業務手順書の修正・追加作成。	
⑥実施プログラム	・既存のものを現状に則して修正。 ・意見の聞き取りとフィードバックの繰り返し。	
⑦参加人数	第二事業課在宅福祉支援領域職員。	
⑧事業目的の達成点	大まかな手順書完成。	
⑨事業目的の未達成点	1) 細分化した手順書は5～6割完成。 2) 業務を行う際のリスクの洗い出し。	
⑩実施上の問題点	細分化した手順書の作成が進まず、リスクの洗い出しまで辿り着かない。	
⑪次回への引継ぎ事項	⑨に同じ。	

3. 家族支援

○：報告 △：計画	○	
①事業名	家族支援	
②事業目的	当事業所の特徴を広報し、利用者が増えることで在宅での介護負担の	

	軽減と稼働率向上を図る。
③実施日時	平成29年4月
④実施場所・会場	-
⑤事業内容	新聞折り込みや広報誌で当事業所の特徴を広報する。
⑥実施プログラム	新聞折り込みや広報誌で総合事業の案内を実施した。
⑦参加人数	-
⑧事業目的の達成点	総合事業については紙面にて広報活動を行えた。また、平成30年4月よりデイサービス新聞の発行が決定し、更なるPR活動に繋がっている。
⑨事業目的の未達成点	徐々に情報発信が進んでいるが、まだ十分とは言えない状況。
⑩実施上の問題点	PRの方法や、取り組むための時間捻出。
⑪次回への引継ぎ事項	⑨～⑩に同じ

4. 職員の資質向上

○：報告 △：計画	○
①事業名	職員の資質向上
②事業目的	利用者・家族とのコミュニケーションを大切にし、信頼関係を築く。積極的に各研修に参加し、質の高いスタッフを目指す。
③実施日時	<p>DS営業全日、担当者会議等。</p> <p>1) 平成29年 5月12日</p> <p>2) 平成29年 6月19日</p> <p>3) 平成29年 6月22日</p> <p>4) 平成29年 7月12～13日</p> <p>5) 平成29年 9月12日</p> <p>6) 平成29年10月18日</p> <p>7) 平成29年10月25日</p> <p>8) 平成29年10月30日</p> <p>9) 平成29年10月 5日、11月21日～22日</p> <p>10) 平成29年11月20日～22日</p> <p>11) 平成29年12月19日</p> <p>12) 平成29年12月23日</p> <p>13) 平成29年12月25日～29日</p> <p>14) 平成30年 3月24日</p>
④実施場所・会場	<p>1) ケアネット会津サービスセンター 竹田ほほえみデイサービスセンター</p> <p>2) 四季の里</p> <p>3) 会津大学</p> <p>4) 福島文化センター</p> <p>5) 会津大学</p> <p>6) 若松ワシントンホテル</p> <p>7) 猪苗代町役場</p>

	8) 郡山ユラックス熱海 9) 福島県農業総合センター、太陽の国管理センター 10) 新潟県長岡市 パストラル長岡 11) ビッグパレットふくしま 12) 国見町デイサービスセンター 13) 新潟県南魚沼市 八色園 14) 大沼郡会津美里町 デイサービス楽楽みさと
⑤事業内容	常に利用者・家族とのコミュニケーションを大切にする。 研修会へ積極的に参加する。
⑥実施プログラム	1) 総合事業視察見学 2) 猪苗代町保健衛生連絡協議会総会・研修会 3) 平成29年度介護保険事業者集団指導 4) 障がい者相談支援・従事者養成研修 5) 高齢者の自立支援に向けた介護事業所運営について 6) ロコモティブシンドロームの原点～運動器の仕組みと使い方～ 7) 猪苗代町保健衛生連絡協議会役員会 8) 平成29年度苦情受付担当者研修(基礎編) 9) 平成29年度サービス管理責任者研修 10) 平成29年度ユニットリーダー研修 11) 職場におけるメンタルヘルス研修 12) 保育所併設型デイサービス視察 13) ユニットリーダー研修 14) デイサービス楽楽みさと内覧会
⑦参加人数	1) 鈴木香、福地喜裕 2) 佐瀬健一 3) 五十嵐隆久、笠間仁菜 4) 渡部佐知子 5) 五十嵐隆久、鈴木香、福地喜裕 6) 福地喜裕、横山早希、中村明子 7) 佐瀬健一 8) 福地喜裕 9) 渡部佐知子 10) 菅沼美香 11) 小坂橋みどり 12) 福地喜裕 13) 菅沼美香 14) 福地喜裕
⑧事業目的の達成点	定期的に研修会への参加は行えている。
⑨事業目的の未達成点	利用者・家族とのコミュニケーションについては接遇基準や目標達成度評価基準が明確でない為に達成、未達成の判断ができない。
⑩実施上の問題点	⑨に同じ。

⑪次回への引継ぎ事項	⑨に同じ。
------------	-------

5. 年間行事等

○：報告 △：計画	○
①事業名	年間行事等
②事業目的	季節に合わせたレクリエーションや会を行うことで、身体能力はもちろんのこと、認知能力や生活感覚の維持向上を図る。
③実施日時	季節に合わせた会の実施、適宜誕生日付近に開催。
④実施場所・会場	デイサービスラウンジ。
⑤事業内容	隔週交代での季節に合わせたレクリエーション。誕生会。選択食。おやつバイキング。季節に合わせた催し。
⑥実施プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・ 身体を動かす運動と手先を使つての作品制作を交互に実施。 ・ 適宜誕生会の開催。 ・ 2か月に一回選択食の提供。 ・ 春と秋におやつバイキングの実施。 ・ 4月お花見、6月運動会、8月夏まつり、9月敬老会。
⑦参加人数	-
⑧事業目的の達成点	各項目予定通り実施し、心身機能・能力の維持向上に寄与できている。上期ではイベント毎に残務が発生していたが、業務時間内に集約できる様作業工程や職務分掌を徐々に修正し、残務処理できつつある。
⑨事業目的の未達成点	なし。
⑩実施上の問題点	なし。
⑪次回への引継ぎ事項	⑧に同じ。

■その他

特になし。

■リーダー所見

【福地】

上期から取り組んできたチーム形成が徐々に出来ており、自分の職責を理解したうえで、周囲の状況を確認しながらお互いにフォローし合える職員が増えてきている。しっかりと基礎が固まれば、新しい取り組みに勢いが付く事が予想され、外に向けてのPRや個別的な取り組みの強化が期待される。

【佐瀬】

登録利用者数は横ばいも実績は1日の平均4件と前年度よりやや増加。ターミナル期利用者、新規 身体障がい者利用者の依頼がありタイムリーなサービス提供に努めた。利用者、家族とのコミュニケーションを大切に、自宅で家族の見守る中で安心、安全な入浴サービス提供ができた。

今後も信頼される職員を目指すとともに、個々のスキルを高め、利用者のニーズに応えられるサービスを提供できるように努めていく。

二 その他

a) デイサービス事業

1. 要介護度別利用実績

要介護度	性別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
事業対象者	男	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	/	0
	女	/	/	/	/	/	/	/	1	1	1	1	1	5
	小計	/	/	/	/	/	/	/	1	1	1	1	1	5
総合	男	1	1	1	2	1	3	4	4	4	4	4	5	34
	女	0	1	2	2	4	7	7	8	9	12	10	13	75
	小計	1	2	3	4	5	10	11	12	13	16	14	18	109
要支援1	男	3	3	3	2	2	2	1	1	1	1	1	/	20
	女	5	4	4	4	4	3	3	2	2	1	1	/	33
	小計	8	7	7	6	6	5	4	3	3	2	2	/	53
要支援2	男	2	2	2	3	2	1	1	1	/	/	/	1	15
	女	11	11	11	11	12	9	10	7	7	4	1	1	95
	小計	13	13	13	14	14	10	11	8	7	4	1	2	110
要介護1	男	5	5	5	5	5	4	5	5	6	5	5	5	60
	女	27	25	25	24	24	24	23	21	19	21	22	24	279
	小計	32	30	30	29	29	28	28	26	25	26	27	29	339
要介護2	男	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	48
	女	26	25	26	27	28	30	27	27	29	25	25	24	319
	小計	30	29	30	31	32	34	31	31	33	29	29	28	367
要介護3	男	4	6	6	5	5	4	4	5	4	3	3	3	52
	女	15	13	13	12	12	10	10	9	11	10	9	10	134
	小計	19	19	19	17	17	14	14	14	15	13	12	13	186
要介護4	男	1	1	1	1	2	2	2	2	2	2	2	2	20
	女	3	6	5	5	6	7	6	6	6	6	7	7	70
	小計	4	7	6	6	8	9	8	8	8	8	9	9	90
要介護5	男	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	6
	女	1	1	2	2	2	1	2	1	1	/	1	1	15
	小計	1	1	2	2	2	1	3	2	2	1	2	2	21
合計	男	20	22	22	22	21	20	22	23	23	20	20	21	256
	女	88	86	88	87	92	91	88	82	85	80	77	82	1026
	小計	108	108	110	109	113	111	110	105	108	100	97	103	1282
利用者 延人数	男	136	153	152	165	163	151	158	138	162	129	111	144	1762
	女	548	550	564	586	572	551	563	514	528	449	405	525	6355
	合計	684	703	716	751	735	702	721	652	690	578	516	669	8117

2.車両運行実績

車種 月別	走行距離 (km)			
	ハイ-λ1	ハイ-λ2	ステップ 5	ステップ 6
4	969	1,090	1,372	1,415
5	1,120	1,001	1,749	1,269
6	1,089	989	1,558	1,565
7	1,126	1,138	1,768	1,524
8	1,278	1,251	1,493	1,468
9	1,052	1,092	1,500	1,525
10	1,109	1,187	1,769	1,534
11	1,175	1,007	1,147	1,516
12	939	387	1,464	1,614
1	987	0	1,394	1,321
2	856	0	1,384	1,886
3	950	131	1,477	926
計	12,650	9,273	18,075	17,563

b) 訪問入浴介護事業

1.月別利用実績

項目	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
利用者実数	16	18	20	17	18	19	18	20	19	18	19	18	220
延実施日数	20	20	22	20	22	20	21	20	21	21	17	16	240
延利用回数	57	77	84	74	80	70	78	80	79	67	69	77	892
1日平均	3	4	4	4	4	4	4	4	4	3	4	5	47
登録者数	16	18	20	17	18	19	18	20	19	18	19	18	220

2.地区別登録利用者

性別	吾妻	長瀬	翁島	猪苗代	千里	月輪	計
男	0	0	1	2	0	0	3
女	2	5	3	3	1	1	15
計	2	5	4	5	1	1	18

3.年齢別登録利用者

性別	年齢	~59	60~69	70~79	80~89	90~	計
男		2	1	0	0	0	3
女		1	0	0	2	12	15
計		3	1	0	3	10	18

4.車両運行実績

(単位 : km)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
走行距離	548	642	775	753	812	648	748	729	754	694	651	729	8,238

事業実施日 240 日 平均走行距離 686 km/月

5.要介護度別利用者

要介護度	1	2	3	4	5	障がい者	計	要支援 0名
人数	1	1	3	7	3	3	18	

- ・登録利用者数は横ばいも、実績は1日の平均利用回数4回と前年度よりやや増加。
- ・2～3月は水曜日の営業休み（祝日の代替え時のみ営業）。ターミナル期利用者や身体障がい者利用者の依頼があり提供した。
- ・自宅で家族の見守る中で安心して入浴することができ、利用者および家族の安堵に繋がったと考える。
- ・今後も利用者のニーズに応えられるようサービスの提供に努めていきたい。

ii 居宅介護支援領域

一 事業計画の現況

部署名	第二事業課居宅介護支援領域	課長心得	五十嵐 隆久
報告書作成者	五十嵐 隆久	作成日	平成30年5月10日

■事業報告または計画の進捗状況

1. 在宅生活継続への支援

○：報告 △：計画	○
①事業名	在宅生活継続への支援
②事業目的	利用者の在宅生活継続。
③実施日時	1) 利用者宅等訪問時。 2) サービス担当者会議等。
④実施場所・会場	利用者宅、入院している病院等。
⑤事業内容	1) 利用者の思いを尊重した継続的支援をするためのアセスメントと適切な居宅プランの作成。 2) チームアセスメントからチームアプローチを目指す。
⑥実施プログラム	居宅訪問等によるアセスメントとモニタリング等。
⑦参加人数	本人および家族ならびにサービス提供事業所担当者。 第二事業課居宅介護支援領域職員。
⑧事業目的の達成点	1) 適切な居宅プランとなるよう努力している。 2) 総合的で質の高いサービス提供を図ることができる。
⑨事業目的の未達成点	1) 適切なアセスメントができていないか（漏れがないか）の判断が難しい。 2) チームアプローチまでは、なかなか至らない。
⑩実施上の問題点	1) 適切な居宅プランかどうかの判断が難しい。（介護に充てることのできる予算もあるため。） 2) チーム形成（理解等）が難しい。
⑪次回への引継ぎ事項	特になし。

2. 信頼関係の構築と情報管理の徹底

○：報告 △：計画	○
①事業名	信頼関係の構築と情報管理の徹底
②事業目的	利用者および家族ならびにサービス提供事業所との信頼関係の構築。
③実施日時	1) 利用者宅等訪問時。 2) 利用者宅訪問時、サービス担当者会議、情報提供時。
④実施場所・会場	1) 利用者宅、入院している病院等。 2) 利用者宅、入院している病院等、各サービス提供事業所等。
⑤事業内容	1) 適切な情報提供や説明、相談支援を通して信頼を得る。 2) 実践の根拠となる関係法令の理解と遵守に努める。
⑥実施プログラム	1) 利用者、家族の意向確認や置かれている状況の理解、介護保険サービスやそれ以外の福祉サービス等の情報提供と説明等。 2) 個人情報の使用については、目的の範囲で最小限に留める。
⑦参加人数	本人および家族ならびにサービス提供事業所担当者。 第二事業課居宅介護支援領域職員。
⑧事業目的の達成点	1) 相談支援を通して、信頼関係構築に努めている。 2) 個人情報については、情報提供の際には関係以外に漏れないよう注意を払っている。
⑨事業目的の未達成点	未達成の判断は難しい。
⑩実施上の問題点	利用者、家族との相性が、信頼関係の壁となることもある。
⑪次回への引継ぎ事項	特になし。

3. 医療機関との連携

○：報告 △：計画	○
①事業名	医療機関との連携
②事業目的	1) 利用者が退院後必要なサービスを円滑に受けられるよう支援する。 2) 医療ニーズが高い利用者について、主治医や訪問看護等の連携を図り、適切なサービス提供ができるよう努める。
③実施日時	1) 入退院時等。 2) 訪問診療やサービス提供時、サービス担当者会議等。
④実施場所・会場	利用者宅、入院時の病院。
⑤事業内容	1) 退院調整ルールによる連携等。 2) 主治医や訪問看護等への照会確認等。
⑥実施プログラム	1) 入院時情報提供シートの送付等により情報共有。 2) 連絡票の利用や必要に応じて時間を合わせて訪問等。
⑦参加人数	第二事業課居宅介護支援領域職員ならびに各医療機関。
⑧事業目的の達成点	1) 情報提供シート送付にて情報共有はできており、退院時に情報収集などもしやすくなっている。 2) 町内の病院の主治医との連携は比較的行うことができています。
⑨事業目的の未達成点	1) 退院時の連絡が来ない病院がある。

	2) 総合病院の主治医との連携は難しくできていない。
⑩実施上の問題点	ムンテラ等になかなか参加できない。
⑪次回への引継ぎ事項	連絡票等で主治医との連携に努める。

4. 地域社会との連携と協働

○：報告 △：計画	○
①事業名	地域社会との連携と協働
②事業目的	利用者の在宅生活継続ならびに地域福祉の増進。
③実施日時	保険者や関係機関、各サービス提供事業所、居宅等訪問時。
④実施場所・会場	保険者や関係機関、各サービス提供事業所等。
⑤事業内容	保険者や関係機関、各サービス提供者等の連携を図り、地域福祉の相談窓口としての役割を果たす。
⑥実施プログラム	情報収集や情報交換等。
⑦参加人数	第二事業課居宅介護支援領域職員ならびに保険者、関係機関、サービス提供事業所。
⑧事業目的の達成点	保険者や地域包括支援センター、各サービス提供事業所等との連携はできている。
⑨事業目的の未達成点	民生委員等との交流が少ない。(必要時は民生委員等とも情報交換はしている。)
⑩実施上の問題点	民生委員等との交流の場がない。
⑪次回への引継ぎ事項	民生委員等との交流を深めていく。

5. 職員の資質向上等

○：報告 △：計画	○
①事業名	職員の資質向上等
②事業目的	介護支援専門員として必要な知識の習得と情報収集を図り、スキルアップに努める。
③実施日時	1) 平成29年 6月14日、 7月19日、 9月21日 11月16日、平成30年3月15日 2) 平成29年 6月22日 3) 平成29年 6月27日 4) 平成29年 7月12日 5) 平成29年 9月12日 6) 平成29年10月 3日 7) 平成29年11月24日 8) 平成29年11月28日 9) 平成29年12月20日、平成30年1月24日、2月20日 10) 平成30年3月2日 11) 平成30年3月16日
④実施場所・会場	1) 地域福祉交流センター 2・5・10・11) 会津大学

	3・7) ビッグパレットふくしま 4) 会津医療センター 6・8・9) 猪苗代町役場
⑤事業内容	職場内外の研修会への参加。
⑥実施プログラム	1) 地域包括支援センター主催勉強会。 2) 平成29年度介護保険事業者集団指導。 3) 白十字Dケアセミナー。 4) 会津医療センター公開セミナー。 5) 平成29年度高齢者の自立支援に向けた介護事業所向け研修。 6) 地域支え合いづくり学習会。 7) 地域同行型研修に係る事前研修。 8) 自立支援型ケア会議事業所説明会 9) 自立支援型地域ケア会議 10) 会津地域現任認定調査員研修会 11) 平成30年度介護保険制度改正に係る説明会。
⑦参加人数	1) 6名、2～5) 各1名、6) 2名、7) 1名、8) 4名 9) 5名、10) 5名、11) 1名。
⑧事業目的の達成点	1) については、職員が交代で定期的に出席している。 その他の研修会についてもできるだけ参加している。
⑨事業目的の未達成点	研修やセミナー開催などがあると思うように参加できない。
⑩実施上の問題点	時間が思うように取れないことが多い。
⑪次回への引継ぎ事項	特になし。

■その他

特になし。

■所 見

多数の利用者へ複数の職員が関わりを持ち支援をしているが、各利用者ならびに担当ごとに進度が違うため達成状況等の評価は難しいが今後も計画の達成に向けて努力していきたい。

二 その他

要介護状態となっても、利用者が住み慣れた自宅や地域において、その人らしく安心した生活を継続できるよう、利用者や家族の生活に対する意向や介護負担などを考慮に入れながら居宅サービス計画書を作成し、より良いサービスの提供ができるよう努めている。

事業実績については、以下のとおりである。

1.要介護認定訪問調査実施状況

年度	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
H28		34	23	50	28	23	21	16	16	34	21	20	30	316
H29		28	26	20	32	28	32	36	30	26	25	17	2	302

今年度の認定調査の実施状況については集計表の通りであり、行政からの調査依頼件数は、前年同期対比95.5%となっている。

2.居宅サービス計画作成実績

年度	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
H28		177	181	185	184	183	182	184	179	177	172	166	172	2,142
H29		177	180	182	183	186	185	183	183	175	170	167	172	2,143

今年度の計画作成件数実績は2143件で、前年同期対比100.04%であり、介護支援専門員1人当たりの月計画作成平均件数は35.7件となっている。

3.計画作成依頼登録数

性別	月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計	増減
男性	継続	48	48	43	46	45	45	45	46	43	40	38	37	524	
	新規	2	1	4	0	1	2	2	3	0	2	1	1	19	
	終結	2	6	1	1	1	2	1	6	3	4	2	0	29	
	小計	48	43	46	45	45	45	46	43	40	38	37	38	514	
女性	継続	164	170	172	172	169	172	172	168	171	166	167	164	2,027	
	新規	7	3	4	2	6	2	2	4	0	3	4	5	42	
	終結	1	1	4	5	3	2	6	1	5	2	7	0	37	
	小計	170	172	172	169	172	172	168	171	166	167	164	169	2,032	
合計		218	215	218	214	217	217	214	214	206	205	201	207	2,546	

V 委員会報告

一 ケア向上委員会

委員会名	ケア向上委員会	委員長氏名	佐藤理沙
報告書作成者	佐藤理沙	作成日	平成30年3月31日

■委員会

開催日	主な協議事項	要点
H29. 4. 19	第一回委員会会議 委員長の選出、事業計画立案	重要項目の決定。
5. 13	勉強会について	勉強会開催の日時や内容について話し合う。
6. 5	第一回介護力講習内容勉強会	水分・食事・運動・排泄について。 講師：佐藤理沙
6. 30	第二回委員会会議：勉強会の反省	前回勉強会の反省をして次回の勉強会に活かせるように話し合う。
7. 3	第二回介護力講習会内容勉強会	認知周辺症状について。 講師：佐藤理沙
8. 10	第一回個別援助計画書立案勉強会	『ケア』を哲学しよう！ 講師：宮澤重嗣
9. 11	第二回個別援助計画書立案勉強会	ストレングスアセスメント演習① 講師：宮澤重嗣
10. 11	第三回個別援助計画立案勉強会	ストレングスアセスメント演習② 講師：宮澤重嗣
11. 17	個別援助計画立案勉強会	個別援助計画立案書の作成について
H30. 2. 8	ネピアのパットとおむつカバーの試用	あじさい・ひまわりフロアにて実施

■第一回介護力講習内容勉強会

○：報告 △：計画	○
①事業名	第一回介護力講習内容勉強会「水分・食事・運動・排泄について」
②事業目的	4つのケアの重要性について理解を深める。
③実施日時	平成29年6月5日16:00～17:00
④実施場所・会場	家族介護者教育室。
⑤事業内容	昨年介護力向上講習会で学んだことを復習し、4つのケアの重要性を理解する。
⑥実施プログラム	16:00 講義 17:00 終了
⑦参加人数	12名。

⑧事業目的の達成点	昨年も取り組んでいたため、少なからず4つのケアについて理解していた。勉強会を開催し、4つのケアについての資料も配布したため、振り返りやすいと思われる。
⑨事業目的の未達成点	4つのケアについて説明することができた。
⑩実施上の問題点	資料をそのまま読んでいただけだったため、分かりづらい点があった。司会者を設けていなかったため、進行がスムーズにできなかった。
⑪次回への引継ぎ事項	分かりやすい資料作り。司会者を設ける。

■第二回介護力講習内容勉強会

○：報告 △：計画	○
①事業名	第二回介護力講習会内容勉強会「認知周辺症状について」
②事業目的	認知周辺症状について理解を深める。
③実施日時	平成29年7月3日 16:00～17:00
④実施場所・会場	家族介護者教育室。
⑤事業内容	昨年介護力向上講習会で学んだことを復習し、認知周辺症状について理解する
⑥実施プログラム	16:00 講義 17:00 終了
⑦参加人数	11名
⑧事業目的の達成点	認知周辺症状についての模擬問題を解いてもらい、理解を深めてもらった。
⑨事業目的の未達成点	講義後に模擬問題を行ったが参加者の理解度に差が見られた。
⑩実施上の問題点	模擬問題の時間が少なかった。
⑪次回への引継ぎ事項	次回は講師が変わるため、連携を取り進めていく。

■第一回個別援助計画書立案勉強会

○：報告 △：計画	○
①事業名	第一回個別援助計画書立案勉強会「『ケア』を哲学しよう！」
②事業目的	ケアの目的を明確にする。 それらを達成する為に必要なことを学び理解する。
③実施日時	平成29年8月10日16:00～17:00
④実施場所・会場	家族介護者教育室
⑤事業内容	・マズローの欲求5段階説。 ・ケアの本質。 ・求められる資質。 ・ICF。
⑥実施プログラム	16:00 講義 17:00 終了
⑦参加人数	12名
⑧事業目的の達成点	プロジェクターを使用し、映像と画像を交えての説明で、イメージしやすく理解が捗った。
⑨事業目的の未達成点	少し難しい内容だったとの声があった。
⑩実施上の問題点	講師と連携がきちんと取れなかった部分があった。

⑪次回への引継ぎ事項	事前に講師ときちんと話合う必要がある。
------------	---------------------

■第二回個別援助計画書立案勉強会

○：報告 △：計画	○
①事業名	第二回個別援助計画書立案勉強会「ストレングスアセスメント演習①」
②事業目的	アセスメント力の向上。
③実施日時	平成29年9月11日16:00~17:00
④実施場所・会場	家族介護者教育室。
⑤事業内容	問題・課題をストレングスにリフレーミングすることによって可能性を拓ける。
⑥実施プログラム	16:00 講義・個人ワーク(宿題) 17:00 終了。
⑦参加人数	9名。
⑧事業目的の達成点	図で分かり易く説明があり理解することができた。ストレングス視点について学び、理解を深めることができた。
⑨事業目的の未達成点	個人ワークに時間を費やしてしまいグループワークでの話し合いが上手くできなかった。
⑩実施上の問題点	⑨に同じ。
⑪次回への引継ぎ事項	時間配分などきちんと把握しながら行う。

■第三回個別援助計画書立案勉強会

○：報告 △：計画	○
①事業名	第三回個別援助計画書立案勉強会「ストレングスアセスメント演習②」
②事業目的	アセスメント力の向上。
③実施日時	平成29年10月11日16:00~17:00
④実施場所・会場	家族介護者教育室。
⑤事業内容	問題・課題をストレングスにリフレーミングすることによって可能性を拓ける。
⑥実施プログラム	16:00 前回振り返り・グループワーク 17:00 終了
⑦参加人数	11名。
⑧事業目的の達成点	グループワークで他者の意見聞くことができ、理解が深まった。
⑨事業目的の未達成点	他者の意見を聞き、アセスメント力は向上したと思うが、まだまだ情報整理しきれていない点があった。
⑩実施上の問題点	前回と今回で2回の開催になってしまった。
⑪次回への引継ぎ事項	演習には時間を要するため、内容に応じて2回開催とするなど計画的に行う。

■第四個別援助計画書立案勉強会

○：報告 △：計画	○
①事業名	第四個別援助計画書立案勉強会「アセスメントを深める」

②事業目的	課題の背景を考える。
③実施日時	平成29年11月17日16:00~17:00
④実施場所・会場	家族介護者教育室。
⑤事業内容	ひもときシートを使用し課題の背景や原因等を整理する。
⑥実施プログラム	16:00 講義 17:00 終了
⑦参加人数	11名。
⑧事業目的の達成点	時間の都合上、2回に分けての開催となる。 今回は説明+自己ワークだったため、集中して取り組めた。
⑨事業目的の未達成点	最後までワークが終わらない人もいた。
⑩実施上の問題点	時間の都合上、2回の開催となってしまった。
⑪次回への引継ぎ事項	次回はグループワークになるので、課題を仕上げてくる事を再度伝達するようにし次回円滑に進められるようにする。

■パット・おむつかバー試用

○：報告 △：計画	△	平成30年度実施予定
①事業名		パット・おむつかバー試用
②事業目的		心地よい排泄の実現
③実施日時		未定
④実施場所・会場		あじさい・ひまわりフロア
⑤事業内容		ネピアのパット、おむつかバーをあじさい・ひまわりフロアにて試用する。ピックアップした男性利用者3人に使用していただき、使用具合を確認し、結果を会議にて共有。
⑥実施プログラム		-
⑦参加人数		利用者3名、あじさい・ひまわり職員、委員。
⑧事業目的の達成点		-
⑨事業目的の未達成点		-
⑩実施上の問題点		-
⑪次回への引継ぎ事項		-

■その他

勉強会が途中から開催できず、中途半端に終わってしまい、次年度に引き継ぐことになってしまった。

■委員長所見

勉強会が、途中から開催出来ず、中途半端に終わってしまい個別援助計画書立案まで伝達できなかった。次年度に引き継ぎ、今後も個別援助計画書立案出来る様に勉強会を開催していくようにする。

また、排泄支援加算の算定が始まるため、排泄支援（パットの見直し、トイレの使用、おむつから布パンツへの移行など）を今後の取組みにあげていく。

引き続き4つのケア（水分・食事・排泄・運動）を忘れず、取り組んでいく。

二 行事委員会

委員会名	行事委員会	委員長氏名	辰野秀彰
報告書作成者	辰野秀彰	作成日	平成30年5月8日

■委員会

開催日	主な協議事項	要点
H29. 4. 21	<ul style="list-style-type: none"> ①委員長選出 ②年間行事確認 ③その他 	<ul style="list-style-type: none"> ①委員長に辰野秀彰、副委員長に鈴木美緒、笠井祐太が就任。 ②お花見ドライブは小坂橋主任に一任。夏まつりについて少しずつ準備を進めていく。
5. 10	<ul style="list-style-type: none"> ①運動会について ②夏まつりについて ③園外散策振り返り 	<ul style="list-style-type: none"> ①リズム体操を早めに決める。当日のシフト調整を行う。ボランティアや家族の人数が決まり次第、駐車場の調整など行っていく。 ②今年度もスパイス企画に設営を依頼。余興の人員確保を進める。 ③利用者が喜んでいて。次回は食事も検討する。
6. 6	運動会について	<p>家族、ボランティア合わせて58名参加予定。</p> <p>職員の駐車場所の決定。</p> <p>雨天時用プログラムを作成する。</p> <p>昨年度を振り返り、今後を検討。</p>
6. 29	<ul style="list-style-type: none"> ①七夕について ②運動会および手持ち花火大会について ③夏まつりについて 	<ul style="list-style-type: none"> ①準備は長谷川康夫介護員に依頼。特養は7月1日、デイサービスは7月3日に飾り付け。 ②疥癬のため中止。 ③8月3日17:30から実施。 <ul style="list-style-type: none"> ・プログラムは辰野委員長を中心に作成。 ・家族出欠は7月第3週に確定。 ・司会者候補を各フロアから1名上げて検討。 ・じゃんけん大会では野口英世記念館より着ぐるみを借用予定。 ・余興はひげダンスを予定。初任職員を中心に5名程度で実施。 ・駐車場やボランティア依頼など

		を早めに進める。
7. 25	夏まつりについて	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族参加66名、ボランティア20名参加予定。 ・ 当日日勤職員は河川敷仮設駐車場、早番者・夜勤者は指定の場所に駐車。 ・ 晴天時、雨天時のプログラムを作成する。
8. 20	<ul style="list-style-type: none"> ①夏まつりについて振り返り ②敬老会について 	<ul style="list-style-type: none"> ①各フロアへ夏まつりについてのアンケート配布。 ②利用者様にプレゼントしたい物を各フロアへ連絡する。
9. 14	敬老会について	<ul style="list-style-type: none"> ・ 家族参加39名予定。 ・ 駐車場の確認。 ・ 敬老会の流れ、タイムスケジュール確認。
9. 29	<ul style="list-style-type: none"> ①敬老会の振り返り ②10月の行事予定について ③もちつきクリスマス会について 	<ul style="list-style-type: none"> ①各棟へ配ったアンケートを基に敬老会について振り返る。 ②いなけんの日程検討。紅葉狩りの計画。 ③10～12月のタスクスケジュール作成。
11. 16	<ul style="list-style-type: none"> ①クリスマスもちつき会について ②クリスマスもちつき会のプレゼントについて 	<p>1. クリスマス・もちつき会について</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 余興を予定していた幼稚園から、今年度は難しいと回答あり。代替りの案として、他の慰問を依頼するか、職員余興実施。 ・ クリスマス・もちつき会のプレゼントについて利用者毎の値段の格差があるため、問題がないか確認する。未定の部分あるため、全員決定後に注文する。
1. 9	<ul style="list-style-type: none"> ①餅つきクリスマス会の振り返り ②団子刺し、歳の神について 	<ul style="list-style-type: none"> ①家族の方や利用者の方が楽しまれていたが行事の周知が不足し何をするのか分からない職員がいた。今後は、各フロア棟のリーダーと連携し、周知に努める。 ②団子刺し、歳の神の日程の確認。

3. 25	①平成30年度 年間行事計画の確認 ②倉庫整理について	①年間行事計画を確認。 ②行事委員で集まって倉庫整理を行う予定。
-------	--------------------------------	-------------------------------------

1. 運動会

○：報告 △：計画	-	疥癬のため中止。
①事業名	運動会	
②事業目的	利用者の意欲ならびにQOL向上。	
③実施日時	平成29年6月16日。	
④実施場所・会場	いなわしろホーム正面駐車場。	
⑤事業内容	運動会。	
⑥実施プログラム	・リズム体操 ・手っ取り早くゴール ・面白おかしく宝をゲット ・玉入れ ・鈴割り	
⑦参加人数	特別養護老人ホーム・ショートステイ利用者・家族、全職員、役員等。	
⑧事業目的の達成点	-	
⑨事業目的の未達成点	-	
⑩実施上の問題点	-	
⑪次回への引継ぎ事項	-	

2. 手持ち花火大会

○：報告 △：計画	-	疥癬のため中止。
①事業名	手持ち花火大会	
②事業目的	利用者の意欲ならびにQOL向上。季節感の体感。	
③実施日時	平成29年7月20日。	
④実施場所・会場	いなわしろホーム正面駐車場。	
⑤事業内容	手持ち花火大会。	
⑥実施プログラム	①手持ち花火 ②吹上花火	
⑦参加人数	特別養護老人ホーム・ショートステイ利用者・家族、全職員。	
⑧事業目的の達成点	-	
⑨事業目的の未達成点	-	
⑩実施上の問題点	-	
⑪次回への引継ぎ事項	-	

3. 夏まつり

○：報告 △：計画	○	
①事業名	夏まつり	
②事業目的	利用者の意欲ならびにQOL向上。季節感の体感。	

③実施日時	平成29年8月3日。
④実施場所・会場	いなわしろホーム正面駐車場。
⑤事業内容	夏まつり。
⑥実施プログラム	・開会 ・リズム体操 ・職員余興 ・子供ジャンケン大会 ・和太鼓演奏 ・盆踊り ・お楽しみ抽選会 ・打上花火 ・閉会
⑦参加人数	利用者88名、来賓14名、ボランティア65名、利用者家族69名 職員家族76名、全職員。
⑧事業目的の達成点	事故なく、プログラム通り実施できた。
⑨事業目的の未達成点	・例年通りの設営、配置を行っていたが、昨年と今年度の人員の変化への対応が不十分であった。(職員への当日協力依頼の不十分さ、離床者配置の適切なスペース確保の不十分さなど) ・事前準備が遅れ、プログラムやタイムスケジュールの配布が直前になってしまった。(司会者選出の遅れ、余興準備の遅れ、準備段階での作業分担の不十分さ) ・当日のイレギュラー対応が不十分であった。 (打ち上げ花火時間の調整など。) ・昨年度と同様の内容となっており、目新しさがなかった。
⑩実施上の問題点	・寝たきりの利用者の参加時間ならびに開催時間の検討。 ・委員が少なく、準備段階での個人負担が大きくなっている。委員以外に依頼する場合も、他の仕事で余裕がなく、とてもできないと断られてしまうことが多々あった。
⑪次回への引継ぎ事項	・開催内容の再検討。 ・準備物の用意。 ・各方面への事前連絡、協力要請の強化。

4. 敬老会

○：報告 △：計画	○
①事業名	敬老会
②事業目的	長寿の祝い。
③実施日時	平成29年9月16日。
④実施場所・会場	特別養護老人ホーム食堂。
⑤事業内容	敬老行事。
⑥実施プログラム	①敬老会(猪苗代町や施設、家族会からの記念品、プレゼント贈呈) ②猪苗代町婦人連絡協議会によるアトラクション
⑦参加人数	利用者94名。
⑧事業目的の達成点	利用者様喜ばれ、事故なく実施できた。
⑨事業目的の未達成点	・式次第の配布が遅れ、職員の事業詳細把握が直前になり、誘導に時間がかかってしまった。 ・職員数が少ないフロアもあった。他フロア職員でフォローできたが、事前に各フロアリーダーへシフト調整を依頼し、余裕を持ったシフ

	トにすべきであった。
⑩実施上の問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・ 食堂のスペースが狭く、誘導が困難だった。 ・ 音響を順序通りに流したが不具合があり、見直しが必要。 ・ 式次第の配布が遅く、職員が事業詳細を把握できなかった。
⑪次回への引継ぎ事項	<ul style="list-style-type: none"> ・ 式次第の早めの作成。 ・ 駐車場場所、指定ユニフォームの早めの伝達。 ・ 各フロアリーダーへのシフトの調整の事前依頼。

5. もちつきクリスマス会

○：報告 △：計画	○	
①事業名	もちつきクリスマス会	
②事業目的	季節の行事を家族と祝う。	
③実施日時	平成29年12月21日。	
④実施場所・会場	特別養護老人ホーム食堂。	
⑤事業内容	もちつきならびにクリスマス行事。	
⑥実施プログラム	さくらこども園によるアトラクション。 施設から利用者へのクリスマスプレゼント。 家族会協力によるもちつきと会食。	
⑦参加人数	特別養護老人ホーム・ショートステイ・デイサービス利用者、全職員。	
⑧事業目的の達成点	利用者様喜ばれ、事故なく実施できた。	
⑨事業目的の未達成点	職員数が少ないフロアもあった。	
⑩実施上の問題点	-	
⑪次回への引継ぎ事項	-	

6. 歳の神

○：報告 △：計画	○	
①事業名	歳の神	
②事業目的	季節行事への参加	
③実施日時	平成30年1月12日。	
④実施場所・会場	食堂および職員駐車場	
⑤事業内容	歳の神の焚き上げを見学する。	
⑥実施プログラム	駐車場にて焚き上げを行う。利用者様はホームの窓より見学する。	
⑦参加人数	特別養護老人ホーム・ショートステイ利用者、全職員	
⑧事業目的の達成点	利用者様楽しそうに歳の神の火をご覧になっていました。	
⑨事業目的の未達成点	-	
⑩実施上の問題点	歳の紙のやり方がわかる行事委員が少なく実施に時間がかかった。	
⑪次回への引継ぎ事項	事前にリハーサルを行い歳の神の仕方を行事委員全体で把握する必要があった。	

7. 豆まき会

○：報告 △：計画	-	感染症防止の為、全体での豆まきは中止
-----------	---	--------------------

①事業名	豆まき会
②事業目的	ご家族との触れ合いの場を作る。
③実施日時	平成30年2月1日。
④実施場所・会場	特別養護老人ホーム施設食堂・ラウンジ。
⑤事業内容	節分行事。
⑥実施プログラム	こどもたちによるアトラクション。 職員が鬼に仮装し、節分行事を実施する。
⑦参加人数	特別養護老人ホーム・ショートステイ・デイサービス利用者、全職員。
⑧事業目的の達成点	-
⑨事業目的の未達成点	-
⑩実施上の問題点	-
⑪次回への引継ぎ事項	-

■その他

特になし。

■委員長所見

今年は感染症が流行り中止となって事業が多かった。事業実施の際、段取りがままならず準備に遅れが生じることが多かったため、来年度は余裕を持って行動できるようにしたい。

また、基本的に人員不足を感じる。事業実施にあたって業務時間の都合などもあり会議になかなか集まれなかったり、各フロアに行事委員がいないため、情報の伝達が遅れたりなど迅速に活動を行うことができなかった。

今後は反省を基に余裕を持って事業に取り組めるようにしたい。

来年度可能であれば、各フロア1～2名の委員割り振りができれば、より効率的に動けたのではと感じる。事業数が多い委員会には、多めに人数を割いても良いのではないかと考える。

三 ボランティアマネジメント委員会

委員会名	ボランティアマネジメント委員会	委員長氏名	馬場真
報告書作成者	馬場真	作成日	平成30年3月31日

■委員会

開催日	主な協議事項	要点
H29. 7. 12	会津磐梯山総踊り参加について	当日の流れについての確認。

■事業報告または計画の進捗状況

1. 磐梯山総踊り参加

○：報告 △：計画	△ 中止
①事業名	磐梯山総踊り参加
②事業目的	地域貢献。

③実施日時	平成29年7月23日18:00~20:00
④実施場所・会場	町内中央商店街。
⑤事業内容	磐梯山総踊りへの参加。
⑥実施プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・法被の事前配布。 ・如風庵前集合。 ・豆絞りとうちわの配布。 ・ホーム幟を携えての磐梯山総踊り参加。 ・参加者への軽食支給。
⑦参加人数	16名。
⑧事業目的の達成点	雨天中止。
⑨事業目的の未達成点	-
⑩実施上の問題点	-
⑪次回への引継ぎ事項	-

■その他

特になし。

■委員長所見

当天中止となり、残念であったが参加予定者に軽食の配布を行った。

四 給食委員会

委員会名	給食委員会	委員長氏名	渡部佐知子
報告書作成者	小坂橋栄子	作成日	平成30年5月9日

■委員会

開催日	主な協議事項	要点
H29. 5. 12	①委員長選出、年間予定 ②今年度の食器購入	<ul style="list-style-type: none"> ・食器購入長期：飯椀（中身が黒い物） DS：スープカップ。
6. 13	【臨時委員会】 ノロウィルス発症職員家族の対応	職員が発症しているか否か施設負担で検査する。
7. 18	①行事食について、夏まつり等 ②感染症対策	<ul style="list-style-type: none"> ・夏まつりの出店メニューや数量の確認。 ・食器に嘔吐された場合の対応などの再確認。
9. 12	①行事食について ②非常食、感染症対策	・非常食：9/1付で更新。配膳ミス防止のため配膳室扉に掲示する。
11. 27	①とろみの統一	・とろみの統一のために計量スプ

	②看取りの復命	ーンやミニ泡立て器など購入する。 ・看取りの研修の復命を「いなけん」で行い職員に周知する。
H30. 1. 23	①行事食について ②大雪の時の対応	・大雪の朝、除雪を依頼している方に圧雪をお願いした。大雪警報が出ている時は施設長の判断で夕食早出しなどの対応をする。

■事業報告または計画の進捗状況

特になし。

■その他

平成29年6月6日に利用者に疥癬発生あり。食器をトレー以外ディスポ食器対応とした。今後も感染症が発生した場合（疥癬・インフルエンザ・ノロウイルスなど）は、ディスポ食器を使用することをほのぼの事務連絡にて周知徹底するようにした。

■委員長所見

- ・食器の購入は、事前に職員の意見を聞き、購入したことで希望に近い物が購入できた。
- ・感染症発症時の食器の取り扱いについては、ノロウイルス発症後の対応だったため、感染症発症前に話し合いの場を設けられれば良かった。
- ・また、今後も利用者が食事を楽しめるよう場の設定に努めたい。
- ・とろみ剤の使用量については、職員によって個人差があるので再度棟内で話し合い、統一を図っていきたい。
- ・感染症の食器の取り扱いについては掲示板に掲示し周知しているが、次年度も職員の部署異動や新任職員入職もあるので、再度対応について周知するようにしたい。

五 リスクマネジメント委員会

委員会名	リスクマネジメント	委員長氏名	佐藤多美子
報告書作成者	佐藤多美子	作成日	平成30年3月31日

■委員会

開催日	主な協議事項	要点
H29. 5. 8	事業目標・年間計画	-
5. 30	事故発生時対応マニュアルについて	-
6. 9	介護ロボット導入について	-
8. 17	事故・ヒヤリハット集計結果分析	-

■事業報告または計画の進捗状況

特になし。

■その他

特になし。

■委員長所見

特になし。

六 感染症対策委員会

委員会名	感染症対策委員会	委員長氏名	笠間順子
報告書作成者	笠間順子	作成日	平成30年5月10日

■委員会

開催日	主な協議事項	要点
H29. 4. 12	疥癬発症（1名）の対応	委員長、副委員長選出、疥癬対策
4. 14	疥癬発症（1名）の対応	疥癬対策
4. 26	疥癬発症（1名）の対応	疥癬対策
5. 2	疥癬発症（1名）の対応	疥癬対策
5. 8	疥癬治癒の対応	疥癬対策
5. 16	疥癬発症（1名）の対応	疥癬対策
5. 29	疥癬発症（1名）の対応	疥癬対策
6. 1	疥癬発症（1名）の対応	疥癬対策、加湿中止 6月勉強会開催内容
6. 6	疥癬発症（2名）の対応	疥癬対策
6. 12	DS利用者疥癬発症（1名）の対応	DS利用中止、訪問入浴介護検討
6. 15	ノロウイルス発症（職員1名）の対応	出勤停止、6月中面会中止
6. 20	疥癬治癒の対応	隔離解除、疥癬対策継続
6. 26	疥癬発症（1名）の対応	疥癬発症10名にて県町に報告 7月20日手持ち花火大会中止 面会規制
6. 28	疥癬グレーゾーン（1名）の対応	疥癬対策
7. 6	皮膚科受診結果（疥癬陰性）	隔離解除
7. 10	疥癬終息	面会規制解除 7月14日防火訓練縮小実施
8. 23	DS疥癬発症（1名）の対応	DS利用中止、訪問入浴対応

9. 6	DS疥癬者治癒の対応	DS利用再開（10月13日以降） 疥癬予防対策
10. 18	DS疥癬発症者の経過	10/17皮膚科受診「疥癬」診断 DS利用中止、疥癬対策
11. 2	（定期）冬期間に向けての感染対策 勉強会、DS疥癬者の経過	加湿、室温・湿度チェック、インフルエンザ予防摂取、全員検温 いなければDSの勉強会開催 10/31再診し治癒せず、訪問入浴利用予定
11. 8	疥癬発症（長期1名）の対応	疥癬対策
11. 15	疥癬発症（長期1名）の対応	疥癬対策
11. 22	疥癬治癒（長期1名）の対応	隔離解除、疥癬対策継続
11. 29	疥癬治癒（長期1名）の対応	隔離解除
H30. 1. 9	インフルエンザA発症（職員1名） の対応	出勤停止、インフルエンザ感染対策
1. 15	インフルエンザB発症（職員1名、 長期1名）の対応	インフルエンザ感染対策
1. 29	インフルエンザ発症（DS職員5 名）の対応	訪問入浴中止（2/1～2） 2/1豆まき（DSのみ中止） インフルエンザ感染対策
1. 30	インフルエンザA発症（長期1名）	2/1豆まき中止、職員予防薬内 服（希望者のみ）、インフルエンザ 感染対策
1. 31	インフルエンザA発症（長期1名、 SS1名）の対応	インフルエンザ感染対策
2. 6	インフルエンザA（長期1名）治癒 の対応	隔離解除、インフルエンザ感染対 策
3. 6	ノロウイルス発症（SS1名）の対 応	SS退所、ノロウイルス対策
3. 23	インフルエンザB発症（長期1名） の対応	インフルエンザ感染対策
3. 26	インフルエンザA発症（職員1名） の対応	出勤停止、インフルエンザ感染対 策
3. 29	インフルエンザ治癒の対応	隔離解除、インフルエンザ感染対 策
3. 30	（定期）感染予防について	加湿継続（床暖の為） 全員検温継続

■事業報告または計画の進捗状況

○：報告 △：計画	○
①事業名	勉強会開催
②事業目的	感染予防の周知徹底。
③実施日時	①平成29年6月22日12:50~13:05、16:30~16:45 平成29年6月23日11:30~11:45 ②平成30年3月28日12:50~13:00、16:30~16:40
④実施場所・会場	会議室
⑤事業内容	①ノロウイルス対策 ②免疫力を高めよう！
⑥実施プログラム	①「汚物処理ツールBOX」を用いた演習 ②紙面上DS説明
⑦参加人数	①62名 ②17名
⑧事業目的の達成点	①演習により具体的に説明することができた。ガウンテクニックの再確認が取れた。 ②免疫力を高めることが感染予防に繋がる事を周知された。
⑨事業目的の未達成点	②DS参加人数が少ない
⑩実施上の問題点	①②準備不足
⑪次回への引継ぎ事項	しっかりした事前準備を図る。

■その他

- ・特になし

■委員長所見

- ・感染症発症時即委員会を開催し早期対応を図ったが上期に疥癬が蔓延してしまった。下期は感染症が蔓延せず良かった。今後も瞬時の対応を継続していく。
- ・感染予防の知識としての勉強会のため、参加者が多くなるように今後検討する。

七 防災委員会

委員会名	防災委員会	委員長氏名	長田学
報告書作成者	長田学	作成日	平成30年3月31日

■委員会

開催日	主な協議事項	要点
H29. 4. 18	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練の実施。 ・本日の避難訓練の反省。 ・今年度の役員の選出。 ・今月の連絡網の伝達訓練の実施。 ・今年度の防災計画の確認。 	<ul style="list-style-type: none"> ・委員長：長田学 ・副委員長：渡部鐘夫 ・本日の避難訓練の反省

5. 15	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練の実施。 ・本日の避難訓練の反省。 ・6月も水害マニュアルの作成を検討。 ・報告書の管理者を決める。 ・先月の連絡網の伝達訓練の反省。 	<ul style="list-style-type: none"> ・報告書管理者：副施設長 ・本日の避難訓練の反省
6. 20	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練の実施。 ・本日の避難訓練の反省。 ・7月の防災訓練に向けたマニュアルの作成。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本日の避難訓練の反省 ・7月の防災訓練に向けたマニュアルの作成。
7. 24	<ul style="list-style-type: none"> ・総合防災訓練の実施。 ・総合防災訓練の反省。 	<ul style="list-style-type: none"> ・総合防災訓練の実施。
8. 24	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練の実施。 ・本日の避難訓練の反省。 ・2階の避難時のカギの開け方。 ・2階の非常時のカギの保管場所の周知。 ・非常用持出袋の中身をフロアごとに確認。中身の統一を促す。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本日の避難訓練の反省。 ・2階の避難時のカギの開け方。 ・2階の非常時のカギの保管場所の周知。 ・非常用持出袋の中身をフロアごとに確認。中身の統一を促す。
9. 28	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練の実施。 ・本日の避難訓練の反省。 ・来月の防災行事の内容の確認。 ・2階の避難口にカラーコーンの設置の検討。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本日の避難訓練の反省。 ・来月の防災行事の内容の確認。 ・2階の避難口にカラーコーンの設置の検討。
10. 18	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練の実施。 ・本日の避難訓練の反省。 ・11月10日～20日の間にAED訓練を行うのでその計画をたてる。 ・避難訓練時の時間帯の変更。 ・災害時の強制参集について。 	<ul style="list-style-type: none"> ・委員長：長田学 ・副委員長：渡部鐘夫 ・本日の避難訓練の反省
11. 29	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練の実施。 ・本日の避難訓練の反省。 ・デイサービスの業務の都合により避難訓練が実施できなかった場合の検討。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本日の避難訓練の反省
12. 28	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練の実施。 ・本日の避難訓練の反省。 ・新しいヘルメット・フラットマットの試着、使用上の注意と使用時の見学。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本日の避難訓練の反省 ・ヘルメットの買い替えの時期

H30. 1. 30	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練の実施。 ・インフルエンザ流行の為、口頭での訓練になりました。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本日の避難訓練の反省
2. 28	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練の実施。 ・本日の避難訓練の反省。 ・いなわしろホーム野外にて冬の間、雪が積もり危険箇所が数ヶ所ある為その箇所を調べ危険度の調査を行う。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本日の避難訓練の反省。 ・冬の間の野外の避難経路の確保。
3. 28	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練の実施。 ・インフルエンザ流行の為、口頭での訓練になりました。 ・来月からの委員の役割を検討する。 ・30年度の計画の見直し。 ・二階の避難経路の確認と検討。 ・防火設備の現状の確認。 ・非常持出袋の中の道具の統一化について。 	<ul style="list-style-type: none"> ・本日の避難訓練の反省。 ・来月からの委員の役割の検討。 ・30年度の計画の見直し。 ・二階の避難経路の確認と検討。 ・非常持出袋の中の道具の統一化

■事業報告または計画の進捗状況

1. 避難訓練

○：報告 △：計画	○
①事業名	避難訓練
②事業目的	非常時における適切な行動の確認。
③実施日時	平成29年4月18日、5月15日、6月20日、8月24日、9月28日、10月18日、11月29日、12月28日、平成30年1月30日、2月28日、3月28日16:00～16:15
④実施場所・会場	特別養護老人ホーム、ショートステイ、デイサービス。
⑤事業内容	利用者の避難誘導および職員の避難。
⑥実施プログラム	16:00 避難誘導開始 16:15 避難誘導完了
⑦参加人数	全利用者、全職員。
⑧事業目的の達成点	避難誘導は、各事業所概ねスムーズにできていた。
⑨事業目的の未達成点	<ul style="list-style-type: none"> ・非常持出袋やヘルメットの着用を忘れていた職員がいる。 ・避難誘導のスムーズさにばらつきがある。
⑩実施上の問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・避難誘導する職員の人数が確保できない。 ・利用者によっては徘徊や介護拒否がありスムーズに行動できない。 ・2階からの避難時、施錠された個室の開け方や鍵の保管場所が分からない職員がいる。
⑪次回への引継ぎ事項	・避難誘導する人員が十分に確保できない日時を把握しておく。

	・鍵の保管場所や解錠方法について周知を図る。
--	------------------------

2. 総合防災訓練

○：報告 △：計画	○
①事業名	総合防災訓練
②事業目的	非常時における適切な行動と初期消火についての確認。
③実施日時	平成29年7月14日11:30~12:00
④実施場所・会場	避難訓練：あじさい・ひまわり通り 消火訓練：ピロティ
⑤事業内容	夜間想定 of 避難訓練ならびに消火訓練。
⑥実施プログラム	11:30 避難誘導開始 11:40 避難誘導完了 11:45 消火訓練 12:00 消火訓練終了
⑦参加人数	あじさい・ひまわり通り職員ならびに総務課職員。
⑧事業目的の達成点	計画通り実施できた。
⑨事業目的の未達成点	事前の段取りや2階担当者への説明が十分にされておらずスムーズな訓練とならなかった。
⑩実施上の問題点	情報の共有や担当職員の引き継ぎがうまくできていなかった。
⑪次回への引継ぎ事項	2階の避難経路の確認。

■その他

・特になし。

■委員長所見

業務と委員会の両立が難しく、会議開催についても勤務や業務の都合で委員が集まらないときがある。

八 苦情解決委員会

委員会名	苦情解決委員会	委員長氏名	一ノ瀬慶子
報告書作成者	一ノ瀬慶子	作成日	平成30年3月31日

■委員会

開催日	主な協議事項	要点
H29. 5. 31	前年度事業報告、今年度事業計画	役割分担、毎月のご意見箱解錠。
6. 1	委員会スローガン、ご意見箱解錠	スローガン 「明るいイメージ、明るい対応」 担当者からの進捗状況報告
7. 3	ご意見箱解錠、重点項目取り組み	担当者からの進捗状況報告

8.	1	ご意見箱解錠、〃	委員の掲示	
9.	1	ご意見箱解錠、〃	外部研修の受講	
10.	2	ご意見箱解錠、〃	担当者からの進捗状況報告	
11.	1	ご意見箱解錠、〃	外部研修の受講伝達	
12.	1	ご意見箱解錠、〃	苦情の掲示	
H30.	1.	4	ご意見箱解錠、〃	重点項目①の見直し
	2.	1	ご意見箱解錠、〃	〃③について、いな研での発表
	3.	1	ご意見箱解錠、第三者委員へ定期報告	平成29年実績報告

■重点項目

1. 利用者からの意見等に対する対応マニュアルの見直し
2. 情報発信
3. サービス向上の取り組み
4. 職員が称え合う「きらり賞」の検討

■その他

○苦情受付

- ・平成29年7月18日 ショートステイ利用者「職員のケアおよび言動について」
- ・平成29年7月27日 ショートステイ利用者「職員の声かけについて」

○第三者委員意見

- ・モラルの低下、接し方に工夫を凝らすために、職員自身が、高齢者の擬似体験して理解を深める。
- ・職員全体会等で、表彰を行い、職員全体のレベルアップを図る。。

■委員長所見

3月に第三者委員への定期報告を実施して情報公開に努めた。

九 広報委員会

委員会名	広報委員会	委員長氏名	杉本美樹
報告書作成者	杉本美樹	作成日	平成30年5月9日

■委員会

開催日	主な協議事項	要点
H29. 5. 8	<ul style="list-style-type: none"> ○委員長選出 ○年間計画 ○平成29年度機関紙について ○第2回ふれあい事業広告チラシ ○委員会内での勉強会 	<ul style="list-style-type: none"> ○委員長選出 <ul style="list-style-type: none"> ・委員長：杉本美樹 ・副委員長：林田まり絵 ○年間計画：別紙カレンダー参照 ○平成29年度機関紙について

		①発行回数 季刊（４月 7月 10月 1月） ②様式：A3両面 ③発行部数：4,550部 ④外注業者：北斗印刷 ⑤構成方法：委員 ○委員会内での勉強会 広報活動、スタッフブログ等について。
6. 15	○機関紙第90号（夏）の掲載内容 と担当について ○今後の予定	
9. 6	○機関紙第91号（秋）の掲載内容 と担当について ○今後の予定	
12. 19	○機関紙第92号（冬）の掲載内容 と担当について ○今後の予定	
H30. 3. 14	○機関紙第93号（春）の掲載内容 と担当について ○今後の予定	

■事業報告または計画の進捗状況

1. 広報勉強会

○：報告 △：計画	-	未実施
①事業名	広報勉強会	
②事業目的	他施設の広報活動より情報収集し、ホームの広報活動に役立てる。	
③実施日時	検討中。	
④実施場所・会場	施設内。	
⑤事業内容	他施設の機関紙からホームの機関紙の長所・短所を把握する。	
⑥実施プログラム	検討中。	
⑦参加人数	広報委員会委員。	
⑧事業目的の達成点	-	
⑨事業目的の未達成点	-	
⑩実施上の問題点	-	
⑪次回への引継ぎ事項	-	

2. 機関誌「白鳥」発行

○：報告 △：計画	○	
①事業名	機関紙「白鳥」発行	
②事業目的	地域における法人事業活動の理解促進。	

③実施日時	季刊（４回）。
④実施場所・会場	施設内。
⑤事業内容	機関誌の発行。
⑥実施プログラム	法人の取り組み、施設生活等の紹介。
⑦参加人数	広報委員会委員。
⑧事業目的の達成点	第９０号（夏） ７／３０折込。 第９１号（秋） １０／２９折込。 第９２号（冬） １／２８折込。 第９３号（春） ５／２７折込予定。
⑨事業目的の未達成点	-
⑩実施上の問題点	-
⑪次回への引継ぎ事項	-

３．スタッフブログの更新

○：報告 △：計画	○	
①事業名	スタッフブログの更新	
②事業目的	法人事業活動の広域的な理解促進。	
③実施日時	随時。	
④実施場所・会場	施設内。	
⑤事業内容	当法人ホームページ内スタッフブログの更新。	
⑥実施プログラム	法人の取り組み、施設生活等の紹介。	
⑦参加人数	広報委員会委員。	
⑧事業目的の達成点	-	
⑨事業目的の未達成点	-	
⑩実施上の問題点	-	
⑪次回への引継ぎ事項	-	

■その他

特になし。

■委員長所見

特になし。

十 地域貢献推進委員会

委員会名	地域貢献推進委員会	委員長氏名	渡部広夢
報告書作成者	渡部広夢	作成日	平成３０年３月３１日

■委員会

開催日	主な協議事項	要点
H29. 4. 28	1 委員長当選出	1 委員長等選出

	<p>2 委員会の目的等 3 平成29年度事業計画 4 その他</p>	<p>・委員長：渡部広夢 ・副委員長：福地L、鈴木L ・行政窓口 小坂橋C、吉田多可子、笠間美香</p> <p>2 委員会の目的等 ＜目的＞ 前年度同様。平易な表現にする。 ＜スローガン＞ 町民が生き生きと暮らせる地域を作っていこう！</p> <p>3 平成29年度事業計画 ・第2回地域ふれあい事業11月中旬開催予定。 ・ミニ地域ふれあい事業8～9月上旬に6地区で開催予定。 ・総合事業の周知のため総合事業についても取り入れる。 ・多職種の参加が必要であるため事業計画の目的に明記する。</p> <p>4 その他 次回5月連休明けに開催。</p>
<p>5. 14</p>	<p>1 当委員会の目的の決定 2 平成29年度事業計画 3 その他</p>	<p>1 当委員会の目的の決定 ①対外 ・家族の介護力の向上 ・地域福祉増進への寄与 ・当法人の存在意義の示す ②対内 ・企画力、発信力、組織力の向上。 ・人材確保に資する。</p> <p>2 平成29年度事業計画 ①内容の検討 ・介護予防に重点を置く。 ・民生委員や老人クラブなどと連携し、一緒に楽しめるような事前事業を実施。広く周知し、興味を促進、11月事業に繋げる。</p> <p>3 その他 委員以外の職員にも参加協力をお願いする。</p>
<p>6. 5</p>	<p>1 今後の役割分担 2 趣意書と計画書の確認</p>	<p>1 今後の役割分担 ・書類作成班</p>

	<p>3 開催日の確認 4 その他</p>	<p>渡部広夢、福地喜裕、鈴木香</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 渉外班 小坂橋哲也、吉田多可子 笠間美香 <p>2 趣意書と計画書の確認 各自熟読し、周知する。</p> <p>3 開催日の確認</p> <p>①miniふれあい事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成29年7～11月。 ・ 社会福祉協議会、民生委員、老人クラブ等と協力し、各行政区コミュニティセンターや屯所などで健康維持、介護予防などをテーマに実施。また、学校へ出向いての職業説明会も実施。 <p>②第2回地域ふれあい事業</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 平成29年11月18日@学びいな予定。 <p>4 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ 第2回地域ふれあい事業参加者数は100名程度をみている。学校などの招待も検討。miniふれあい事業を通じた参加促進を期待。 ・ 次回開催6月中旬。
<p>7. 19</p>	<p>1 民生委員の会合に向けて 2 その他</p>	<p>1 民生委員の会合に向けて</p> <p>①日時 平成29年8月22日 13:30～14:30</p> <p>②場所 学びいな</p> <p>③次第 資料を8月16日までに作成。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1) 施設長挨拶並びに職員紹介(施設長) 2) 趣旨説明(委員長) 3) 介護予防体操(福地L) 4) 栄養について(小坂橋栄子) ※OS1使用。 5) 介護保険の説明+総合事業の案内(小坂橋C、鈴木L) 6) 口腔ケアについて(土屋DH)

		<p>※日勤で出席。</p> <p>7) 質疑応答</p> <p>④アンケート（委員長作成）</p> <p>⑤準備物</p> <ul style="list-style-type: none"> ・当日配布の簡易チラシ（小板橋C）、Tシャツ（福地L）、名刺（鈴木L）、幟（吉田）、OS1（鈴木L） <p>2 その他</p> <p>次回評議員を交え8月7日11:30～12:30に開催予定（昼食込）。</p>
8. 7	<p>1 民生員の会合に向けて</p> <p>2 内容確認</p> <p>3 その他</p>	<p>1 民生委員の会合にむけて</p> <p>①施設長挨拶並びに職員、運営協議会委員紹介</p> <p>②趣旨説明</p> <ul style="list-style-type: none"> ・第一事業課と第二事業課の違い。 ・地域ふれあい事業とは？ <p>2 内容確認</p> <p>①介護予防・健康体操（健康寿命から寿命までのギャップ縮小）</p> <p>②栄養について（水分の大切さ）</p> <p>③介護保険について</p> <p>④口腔ケアについて</p> <p>2 その他</p> <ul style="list-style-type: none"> ・認知症予防、水分ケアの映像があるので流したらどうか。 ・チラシやポスターに対象年齢を入れたらどうか。 ・民生委員は母子世帯とも関わっている。母子でも参加できるような内容もあれば良い。 ・血圧を記入した個人カードを作るなど次回も参加できるような工夫があると良い。 ・参加者には次回案内送付を検討。 ・身近なもので簡単にできること実際に見て体験できることがあると良い。
9. 11	<p>1 ミニふれあい事業振り返り</p> <p>2 学校訪問について</p>	<p>1 ミニふれあい事業の振り返り</p> <ul style="list-style-type: none"> ・お腹から声をだし、告知する。

	<p>3 その他</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・時間オーバーにより質疑応答ができなかった。 ・時間内で終われるようにする。 <p>2 学校訪問について 猪苗代高校に依頼するも不可。</p> <p>3 その他</p> <p>○アトラクション 川桁謡真鼓楽会、長瀬小マーチングバンド、シルバー人材センター、オカリナ愛好会、こども園が候補。</p> <p>○本番</p> <ul style="list-style-type: none"> ・10:00～12:00。 ・SSやDSのご家族にも案内を流す。 ・9月16日敬老会時にご家族に案内を出す。 ・職員家族にも声をかける ・ポスター内容を検討。 ・ブース内容（ミニ介護体験、血圧測定など） ・次回開催9月下旬。
<p>9. 2 2</p>	<p>1 ポスター内容について</p>	<ul style="list-style-type: none"> ・日時、場所、講演内容、ブース内容、スタンプラリー、飲むゼリー、マスク。 ・写真は去年の物を使用。
<p>11. 16</p>	<p>1 地域ふれあい事業、当日の流れ確認</p>	<p>内容・検討事項</p> <p>1、地域ふれあい事業・当日の流れ確認</p> <p>①出発時刻について 9:00出発は居宅職員3名+林田でその他の職員は8:30出発 *小坂橋主任はSS送迎が終了次第出発</p> <p>②会場設営について ブース管理者は棚木主任に決定 エレベーター前に受付を設置する予定</p> <p>③職員体制について 総勢30名 ふれあい事業ポロシャツにイン</p>

		<p>ナーは黒・ピンク・ネイビーの何れかの色を着用 職員証と名刺を準備する事</p> <p>④広報について ポスター増刷し10枚程度余っているので貼る場所の追加検討を</p> <p>⑤準備について 講演会資料等を前日までに袋詰め</p> <p>⑥花束贈呈について 謡真鼓楽会さん⇒鈴木リーダー 岡本先生⇒林田</p> <p>⑦アンケートについて アンケートは去年と同様のものを使用 記入しやすい環境と回収箱の設置を</p>
<p>12. 6</p>	<p>1 地域ふれあい事業の反省</p>	<p>1、施設長挨拶 2、自己紹介 3、ミニ地域ふれあい事業、第2回地域ふれあい事業の報告 4、第2回地域ふれあい事業の反省</p> <p>(来客が少なかった)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催時期をもう少し早める。9月中旬頃はどうか。 ・今年度はできなかったが学びいな大ホール会場をフラットにして使用するのはいかがでしょうか。 ・子供を呼べるように来年度前に予定を立てておく。 ・人数の把握と同時に役員関係かホーム関係者か分かるように名簿があると良い。 ・とにかく人を呼び込むようにお笑い芸人を呼ぶのも良い。 ・職員、職員家族が少なかった。 ・チラシを各地区の回覧板で回すのも手法だが1ヵ月以上前には各地区へ配布すべきだし、

		<p>その月のチラシが多いと見ない人もいるであろう。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・サロンを利用し集客につなげる。 ・足がなくて来たくてもこれない人がいた。町社協のバスを利用するのはどうか。 <p>(講演会が長くてブースへの時間が30分程度しかなかった。)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開催時間が短い。時間を変更して午後の開催にすべき。 ・講演会が予定より25分長引いた。ブースへの時間がなくなってしまう。質疑応答が多かったので、講演者と司会にきちんと話す必要がある。長くても5分オーバーに。 <p>(その他)</p> <ul style="list-style-type: none"> ・県社協に障がい者体験セットを借りたが、町社協にもあった。情報不足であった。 <p>[参加職員からの反省]</p> <ul style="list-style-type: none"> ・チラシもカラーで配布すれば良かった。 ・居宅を通して訪問時に声をかけられるので、もう少し早めにチラシを渡して欲しい。 ・筋力年齢測定でストップウォッチと握力計が一つずつだったので、来てくれた方を待たせてしまった。もう1セットは準備が必要であった。 ・給水所を設ければよかった。 ・新聞社に取材依頼を出すべきだった。
--	--	---

■事業報告または計画の進捗状況

1. mini地域ふれあい事業

○：報告 △：計画	○	
①事業名	mini地域ふれあい事業	

②事業目的	地域福祉の増進に寄与とともに当法人の有意性をアピールする。
③実施日時	平成29年8月22日(火) 13:30~14:30
④実施場所・会場	学びいな
⑤事業内容	「介護保険制度」「生活支援(介護)」「認知症ケア」「健康支援」「リハビリテーション」など法人内の様々なノウハウを地域へ還元する。
⑥実施プログラム	①施設長挨拶 ②委員長挨拶及び趣旨説明 ③介護予防・健康体操 ④経口補水液ってなに? ⑤介護保険について ⑥高齢者の口腔ケアについて
⑦参加人数	約60名
⑧事業目的の達成点	プログラム通り実施できた。
⑨事業目的の未達成点	特になし。
⑩実施上の問題点	予定より時間が長引いてしまった。
⑪次回への引継ぎ事項	スムーズに実施できるよう、段取りする。

2. 地域ふれあい事業

○: 報告 △: 計画	○
①事業名	地域ふれあい事業
②事業目的	地域福祉の増進に寄与とともに当法人の有意性をアピールする。
③実施日時	平成29年11月23日(木) 10:00~12:00
④実施場所・会場	学びいな
⑤事業内容	地域住民のニーズを踏まえた基調講演とテーマ別相談会の開催。 ブース毎に具体的な個別またはグループ相談に応じる。 総合案内を設け、そこで話しを伺い該当するブースへ案内する。
⑥実施プログラム	①集合・準備・リハーサル ②開場・アトラクション準備 ③川桁謡真鼓楽会アトラクション披露 ④開会式・理事長挨拶・委員長挨拶・来賓挨拶 ⑤講演並びにブースの開始 ⑥ブース呼び込み ⑦閉会 ⑧写真撮影・後片づけ ⑨講評
⑦参加人数	約50名。
⑧事業目的の達成点	プログラム通りに実施できた。
⑨事業目的の未達成点	特になし。
⑩実施上の問題点	実施時間が短く、余裕がなかった。
⑪次回への引継ぎ事項	次回は、もう少し温かい時期に開催すると良い。

■その他

特になし。

■委員長所見

今年度は、地域ふれあい事業により多くの地域住民の方に参加していただきたく、ミニふれあい事業を実施した。民生委員に協力していただき、会合へ参加。アンケートでは「良かった」との声が多かった。地域ふれあい事業では、悪天候と言う事もあり参加者があまり多くなかった。

内容としては、満足との声が多かった。

十一 研修委員会

委員会名	研修委員会	委員長氏名	芦沢大和
報告書作成者	芦沢大和	作成日	平成30年5月3日

■委員会 ※列数は、任意に増減してください。

開催日	主な協議事項	要点
H29. 4. 28	<ul style="list-style-type: none"> ・委員長、副委員長選任 ・平成28年度事業報告 ・平成29年度事業計画 ・4月いなけん（膝トレーナー） 	<p>職員の研修ニーズの把握、それに沿った事業の計画と、月一回のいなけん開催を目標とする。</p> <p>企画研修班、いなけん班の二班に分かれ活動する。</p>
5. 11	<ul style="list-style-type: none"> ・法人課題分析 ・年間研修表の作成 	<p>人材育成面で、中堅職員・リーダー以上の研修プログラムがない、キャリアパス制度が機能していない等の課題がある。</p>
6. 15	<ul style="list-style-type: none"> ・人材育成に関する課題分析 ・6月いなけん（腰痛予防ストレッチ） 	<p>企画研修班は資質向上にアプローチする事業を計画する。</p> <p>テーマ「介護の専門性を高める」。</p>
7. 25	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会重点事業について ・個別研修計画の活用法 ・7月いなけん（正しいオムツのあて方） 	<p>個別研修計画から職員の研修ニーズを見出す。</p>
8. 31	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会重点事業について ・8月いなけん（褥瘡予防勉強会） 	<p>職員の介護観・専門性を把握するためのアンケートを実施する。</p>
9. 29	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会重点事業について ・9月いなけん（体位交換の勉強会・申込から入所までの流れ） ・未来人財会議について 	<p>事業計画のタスクスケジュール作成。</p> <p>事業内容・プログラムのたたき台を作る。次回委員会にて修正し決定する。</p> <p>未来人財会議プロジェクトチームを発足し、事業計画を立案する。</p>

10. 25	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会重点事業について ・10月いなけん報告（体位交換の必要性、申込から入所までの流れ、アンガーマネジメント） 	12月開催予定の重点事業について話し合い、必要書類の作成をする。
11. 20	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会重点事業について ・今後の委員会予定 ・11月いなけん報告（床暖調整） 	当日の役割分担を決め、シミュレーション等の予定を作成する。
12. 15	<ul style="list-style-type: none"> ・委員会重点事業リハーサル ・ファシリテーター勉強会 ・12月いなけん報告（社協福祉施設栄養士研修復命） 	事前アンケートを回収しグループ分けする。リハーサル、ファシリテーター勉強会を実施する。必要書類の最終チェックを行う。
H30. 1. 12	<ul style="list-style-type: none"> ・重点事業の振り返り ・事後アンケート配布 ・1月いなけん報告（記録の書き方） 	重点事業での良かった点と改善点について話し合う。事後アンケートを配布（1月22日）し、事業に対しての評価を行う。
2. 21	<ul style="list-style-type: none"> ・重点事業報告書、フィードバック作成について ・未来ホーム会議について ・2月いなけん報告（安楽な移乗動） 	事後アンケートを基に報告書、フィードバックを作成する。重点事業での改善点を活かし、継続した事業への発展を目指す。
3. 6	<ul style="list-style-type: none"> ・未来ホーム会議について ・振り返りテスト 	未来人財会議にて『ユニットケアの理念・概要』について勉強会を開催する。新任職員の振り返りテスト（3月15日）を実施する。
3. 30	<ul style="list-style-type: none"> ・未来ホーム会議振り返り ・次年度の重点事業 ・3月いなけん振り返り（介護知識の勉強会、算定要件とサービス利用料変更について） 	3月15日実施した未来ホーム会議の良かった点と改善点を話し合う。次年度も引き続き「介護力向上」を目標に委員会を進めていく。

■事業報告または計画の進捗状況

1. 介護倫理を学ぼう！～介護を哲学する～

○：報告 △：計画	○
①事業名	介護倫理を学ぼう！～介護を哲学する～
②事業目的	<ul style="list-style-type: none"> ・介護士としての使命・専門性を自覚し、自分の仕事に誇りとやりがいを持てる。 ・理想の介護士像とのギャップを知り、その差を埋めるための行動を考え、行動できる。

③実施日時	平成29年12月22日19:00~20:30
④実施場所・会場	デイサービスセンター食堂
⑤事業内容	職員は、様々な研修を通して研鑽に努めている。しかし、技術を磨く研修は多く見られるが、資質向上に関する研修はあまり行われていない。ここで今一度、介護の専門性・介護倫理について振り返り、それを踏まえて自身が成すべきことは何か考え、発表する。
⑥実施プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉倫理綱領・行動規範を知る。(講義) 理想の介護士像(=基準)を知る。 ・現在の自分の立ち位置を知る。(グループワーク) 家族介護との違い、有資格者の違い、どのような点にやりがいを感じるか等の議題を通して、自分の介護観、理想像とのギャップを知る。 ・ギャップを埋める為の行動宣言(個人ワーク&発表) 理想像に近づくためには、どうすれば良いか考え発表する。
⑦参加人数	15名
⑧事業目的の達成点	<ul style="list-style-type: none"> ・介護福祉倫理綱領・行動規範を知ることができた。 ・介護士としての専門性について考えるきっかけになった。 ・ギャップに気付き、行動宣言を設定することができた。
⑨事業目的の未達成点	<ul style="list-style-type: none"> ・事後アンケートから行動宣言を実行できていない現状が見られた。
⑩実施上の問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・参加意識が低い職員が見られた。 ・事前アンケートの提出率が悪かった。 ・勤務後に参加する職員が多く、タイムラグが生じてしまった。 ・参加してほしい職員(モチベーションが低く、やりがい等を感じられない職員)ほど不参加が多く見られた。
⑪次回への引継ぎ事項	<ul style="list-style-type: none"> ・開催案内を周知する。 ・事業を説明し、参加を促す場を設ける。 ・運営する上でのアンケートを取る。

2. 未来ホーム会議

○:報告 △:計画	○
①事業名	未来ホーム会議
②事業目的	全職員でユニットケアの共通認識を図る。 大局的な視点からいなわしろホーム、自分自身の課題を捉え、自身がこれからのいなわしろホームの未来を担う人財であることの自覚を促し、法人にとってかけがえのない人財を育成する。
③実施日時	平成30年3月15日19:15~20:30
④実施場所・会場	デイサービスセンター食堂
⑤事業内容	平成30年4月より、地域密着型特養(ユニットケア)が開所される。しかし職員へユニットケアの理念の周知・理解が図られていない。そのため、多くの職員がユニットケアの十分な根拠を持っておらず、ここで一度、ユニットケアについて勉強会を実施することで、根拠に基

	づいた、質の高いサービス提供に繋がるのではないか。
⑥実施プログラム	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニットケアとはなにか（座学） ユニットケアリーダー研修に参加した3名からユニットケアの理念と概要について学ぶとともに、実習施設で感じた「ユニットケアとは」について伝達してもらいます。 ・理念を実現するには（グループワーク） テーマ「もし自分が施設に入所したらやりたいこと、どう過ごしたい？」24間シートを活用し、従来のケアとユニットケアを比較することで利用者様の「自律支援」を考えます。
⑦参加人数	34名
⑧事業目的の達成点	・ユニットケアの理念・概要の共通認識ができた。
⑨事業目的の未達成点	・ユニットケアの理念・概要は理解出来たが、実施する際の不安が多いとの意見が見られた。
⑩実施上の問題点	<ul style="list-style-type: none"> ・ユニットケアの詳細な説明が聞きたかった。 ・グループワークの目的がわからなかった。 ・グループの人数が多く、話し合いし辛かった。 ・事業内容と参加者の興味関心にギャップがあった。 ・グループワークの進め方に、ファシリテーターへの周知不足があった。
⑪次回への引継ぎ事項	<ul style="list-style-type: none"> ・改善点を活かし、継続した事業への発展を目指す。 ・次年度も引き続き「介護力向上」を目標に委員会を進めていく。

■その他

プリセプターシップの進捗状況報告を行っている。

■委員長所見

勤務の都合などから、なかなか委員が集まらず少数での開催が目立った。二つの班に分かれ活動しているが、互いの班の決定事項などの情報伝達がスムーズに行かなかった。

2つの事業を開催したが、どちらも参加者が少ない、興味関心とのギャップなど改善点が多く見られた。平成30年度は改善点を活かして、事業計画をしていきたい。

また、いなけん開催の頻度が上がり、職場風土に溶け込んで行っているように感じる。今後も継続して開催していきたい。

十二 安全衛生委員会

委員会名	安全衛生委員会	委員長氏名	小板橋みどり
報告書作成者	小板橋みどり	作成日	平成30年5月13日

■委員会

開催日	主な協議事項	要点
-----	--------	----

H29. 4.18	<p>1. 委員長選出</p> <p>2. 職員健康診断</p> <p>3. 年度計画</p>	<p>職員健康診断各フロアへ問診票の配布（健康診断4／28）</p> <p>4月 職員健診・腰痛健診</p> <p>10月 腰痛・深夜健診 ストレスチェック</p> <p>12月 職員インフルエンザ予防接種</p> <p>* 昨年同様ストレスチェック前に、外部講師を招き職員会を行う。昨年は、12月にインフルエンザが流行したため、今年度の予防接種は早期接種を検討。</p>
5.30	職員健康診断結果配布	<p>フロア毎に分け配布</p> <p>* 有所見者は副施設長から個別に声掛けしていただく。</p>
6.30	研修テーマ資料配布	各フロアに研修テーマ一覧を配布し、受たい研修の希望を取り、集計する。
7.31	研修テーマ周知、深夜・腰痛健診	<p>各フロアに決定した研修テーマを配布し、3回に分けた日時にて希望をとる（8月末まで）。</p> <p>深夜・腰痛健診の日時の周知。</p>
8.30	9月職員会出席人数集計	3回に分けた研修の出席人数確認
9.19	職員会実施	介護労働安定センターより講師を招き、①18：00②19：00の2回講演を実施。
9.22	職員会実施	講演3回目（14：00～15：00）。
10.19	腰痛・深夜・ストレスチェック配布物準備	フロア毎に配布物を仕分けし配る。
11. 9	職員インフルエンザ予防接種について	小川医院と連絡を取り、日時決定後希望を取る（12／4予防接種）。
12. 7	健診・ストレスチェック結果配布	<p>フロア毎に分け配布。</p> <p>* 有所見者は副施設長から個別に声掛け。</p>
H30. 1.29	4月職員健康診断・腰痛健診	<p>日時の周知（健康診断4／27）</p> <p>* インフルエンザが流行してきているので、各自予防に努めるよう伝える。</p>
2.28	職員インフルエンザ発症の振り返	各自予防に努める

	りと改善策	
--	-------	--

■事業報告または計画の進捗状況

特になし。

■その他

特になし。

■委員長所見

- ・講師を招いての職員会では、前年同様3回に分けることで多くの職員が講演を聞くことができた。
- ・職員がインフルエンザを発症した件については、職場への影響の重要性を念頭に置き、手洗い、嗽、マスクの使用を徹底する。流行の時期には、人ごみを避け、こまめな水分補給、栄養、睡眠を十分にとり、各自予防に努める。

十三 施設物品管理委員会

委員会名	施設物品管理委員会	委員長氏名	菅沼美香
報告書作成者	菅沼美香	作成日	平成30年3月31日

■委員会

開催日	主な協議事項	要点
H29. 4. 24	年間計画	委員長、副委員長の選出 年間計画
5. 24	日常物品の管理・購入 粗大ごみ回収 文書保管庫の整理 職員ユニホーム購入 災害時スタッフ着用検討 災害用物品入れ替え 倉庫1整理	物品購入の注意事項 粗大ごみ回収の期日・場所 車イス修理
6. 26	文書整理日時 ユニホーム購入 災害時ジャンパーについて	7月5日に文書整理実施予定 ※居宅介護支援領域に実地指導が入るため文書整理延期。
9. 25 9. 26	文書整理	処分文書、保管文書の整理
10. 10	職員ユニホーム購入 非常物品の入れ替え	色・形の決定 日時指定

■事業報告または計画の進捗状況

特になし。

■その他

会議を開いても参集できないことが多く意見が聞くことができない。

■委員長所見

- ・勤務時間の中で会議を持つことが難しい。
- ・施設備品も老朽化が見られる。安全に使用するために新しい物が必要かと思われる。

十四 未来プラン委員会

委員会名	未来プラン委員会	委員長氏名	福地喜裕
報告書作成者	福地喜裕	作成日	平成30年5月8日

■委員会

開催日	主な協議事項	要点
H29. 5. 24	委員長の選出、事業計画立案	重点項目の決定
6. 23	重点項目の進捗状況確認	委員の担当決定
7. 26	重点項目の進捗状況確認	担当制による自分事の確認
8. 25	重点項目の進捗状況確認 福島県人材定着専門家派遣事業 第1回訪問	キャリアコンサルティング
9. 21	福島県人材定着専門家派遣事業 第2回訪問	第一回振り返り キャリアパスの検討 人材育成方針の検討
10. 19	重点項目の進捗状況確認	多床室の改修、準ユニット化 個別援助計画作成研修 ケアマニュアルの見直し 地域ふれあい事業について サテライト DS、事業所内託児所
10. 26	福島県人材定着専門家派遣事業 第3回訪問	キャリアパスの検討 階層別育成計画の検討 評価制度の検討
11. 27	福島県人材定着専門家派遣事業 第4回訪問	キャリアパスの検討 階層別育成計画の検討 評価制度の検討
12. 11	重点項目の進捗状況確認	第4回訪問の宿題検討
12. 21	福島県人材定着専門家派遣事業 第5回訪問	キャリアパスの検討 育成計画の検討 評価制度の検討

		全体のまとめ
H30. 3.5	重点項目の進捗状況確認 次年度への引き継ぎと活動方法	多床室のプライバシー保護改修 サテライト事業について ふれあい事業について 委員会メンバー構成について

■事業報告または計画の進捗状況

1. 利用者満足度を高める事業

○：報告 △：計画	△	継続実施。
① 事業名	利用者満足度を高める事業	
② 事業目的	利用者の望む暮らしの実現。	
③ 実施日時	-	
④ 実施場所・会場	-	
⑤ 事業内容	ハード・ソフトの充実。	
⑥ 実施プログラム	1) 人権とプライバシーの尊重 プライバシーに配慮した特養多床室改修。 2) 安心安全なサービスの提供 空調機器改修ならびに介護ロボットの活用。 3) 自己実現介護 個別援助計画立案研修実施、ケアマニュアル見直し。	
⑦ 参加人数	-	
⑧ 事業目的の達成点	1) 30年度に実施予定 2) 空調改修については引き続き意見を取り入れ中。介護ロボットについては2018年4月の介護報酬改定で加算要件に「見守りロボット」が含まれてくるとのこと。 3) ケア向上委員会にて計画していたが実施できず。	
⑨ 事業目的の未達成点	⑧に同じ。	
⑩ 実施上の問題点	⑧の3)に同じ	
⑪ 次回への引継ぎ事項	⑧に同じ。	

2. 地域福祉を増進する事業

○：報告 △：計画	△	継続実施。
① 事業名	地域福祉を増進する事業	
② 事業目的	誰もが住みやすい地域社会の実現。	
③ 実施日時	-	
④ 実施場所・会場	-	
⑤ 事業内容	社会福祉法人としてゼロベース思考で新たな事業を展開する。	
⑥ 実施プログラム	1) 地域ニーズの把握と介護予防の取り組み 地域ふれあい事業。 2) セーフティネット 利用者負担軽減制度の情報発信。	

	3) HAPPYホームいなわしろミニタウン 多角経営（事業所内託児所）、サテライトデイサービス事業。
⑦参加人数	-
⑧事業目的の達成点	1) 地域ふれあい事業の実施。 2) 広報誌にて情報発信済み。今後HPでも情報発信予定だったが活動無し。 3) サテライト事業としてDS、総合事業を検討、職員のニードとしては託児所の開設が最大であったが、人員、施設基準、運営の面で問題があり進展せず。
⑨事業目的の未達成点	⑧に同じ。
⑩実施上の問題点	⑧の3)に同じ
⑪次回への引継ぎ事項	⑧に同じ。

3. 職員満足度を高める事業

○：報告 ○：計画	○	
③ 事業名	職員満足度を高める事業	
④ 事業目的	法人の継続的な発展。	
③実施日時	-	
④実施場所・会場	-	
⑤事業内容	働き甲斐のある職場環境を整え、未来人材を育成する。	
⑥実施プログラム	1) 未来人材の育成 未来ホーム会議開催。 2) 働き甲斐のある職場づくり（ステークホルダーとの連携） 理事・評議員等との意見交換会。	
⑦参加人数	-	
⑧事業目的の達成点	1) 新入職員の成果発表とユニットケアに関わる職員全体研修会を未来ホーム会議として開催 2) 地域ふれあい事業に関連して、運営協議会委員と意見交換会を複数回実施。	
⑨事業目的の未達成点	⑧の2)に同じ。	
⑩実施上の問題点	-	
⑪次回への引継ぎ事項	⑧に同じ。	

4. 地域連携や財政健全化に関わる事業

○：報告 ○：計画	○	
⑤ 事業名	地域連携や財政健全化に関わる事業	
⑥ 事業目的	地域との共生。	
③実施日時	-	
④実施場所・会場	-	
⑤事業内容	ステークホルダーとの連携を進め、財政健全化を図る。	
⑥実施プログラム	1) 法令遵守	

	コンプライアンス教育
⑦参加人数	-
⑧事業目的の達成点	1) 下記についていなけんや職員会で実施。 介護保険制度、入所の仕組み、利用契約書、指定基準、加算要件、労働基準法、育児介護休業法等。
⑨事業目的の未達成点	⑧に同じ。
⑩実施上の問題点	-
⑪次回への引継ぎ事項	⑧に同じ。

■その他

平成29年度福島県人材定着専門家派遣事業により、キャリアパス、育成計画評価制度の最終案が決定。

■委員長所見

下期にかけて急ぎ足ではあるが、計画から実行までたどり着いた項目あり。人材定着専門家派遣事業と相まって委員会開催が減少したが、各項目で担当が責任を持って対応する事ができている印象。次年度も内容を深めながら事業を継続できる様対応していく。

以上

平成29年度

社会福祉法人 猪苗代福祉会
経営状況報告書

社会福祉法人 猪苗代福祉会

- 特別養護老人ホームいなわしろホーム
- いなわしろホーム 指定短期入所生活介護事業
指定介護予防短期入所生活介護事業
- いなわしろホーム デイサービスセンター指定通所介護事業
指定介護予防通所介護事業
- いなわしろホーム 指定訪問入浴介護事業
指定介護予防訪問入浴介護事業
- いなわしろホーム 指定居宅介護支援事業
- 障害福祉サービス事業
- 猪苗代町よりの受託事業
 - ・訪問入浴サービス事業
 - ・在宅高齢者生活支援ショートステイ事業

〒969-2661 福島県耶麻郡猪苗代町大字三郷字寺南7962番地1

TEL 0242-66-4123 (代)

FAX 0242-66-4027

TEL 0242-66-4124 (デイサービスセンター、訪問入浴介護事業所)

TEL 0242-66-4125 (居宅介護支援事業所)

FAX 0242-66-4126 (居宅介護支援事業所)